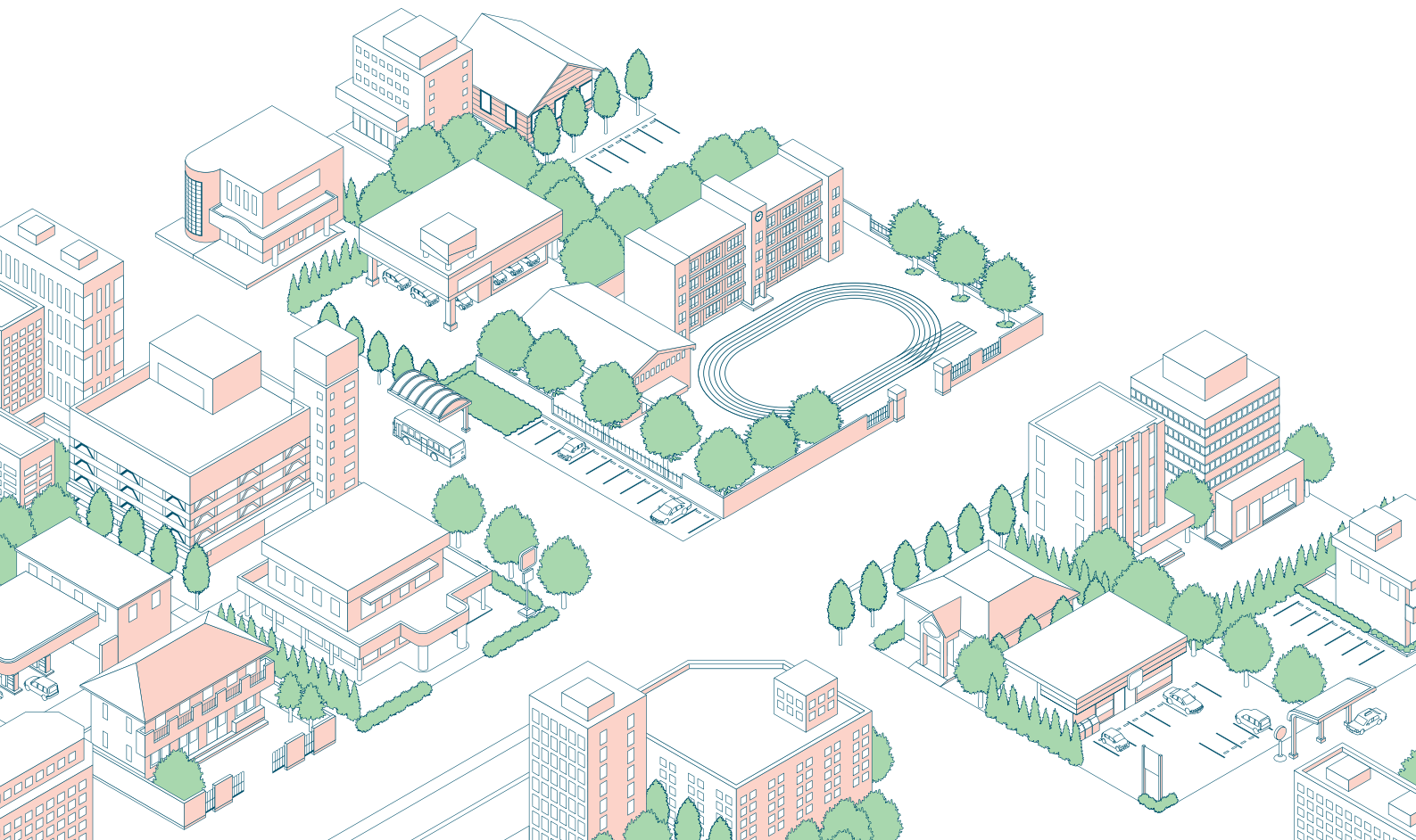

ANNUAL REPORT 2023

MITSUBISHI MEMORIAL FOUNDATION
FOR EDUCATIONAL EXCELLENCE



Contents

理事長メッセージ	1
Chapter 1 > 財団活動報告	
一般財団法人三菱みらい育成財団のビジョン／ 助成プログラム一覧	2
2023年度の応募・助成状況	3
2023年度プログラム	4
2021～23年度採択案件所在地マップ	6
プラットフォーム事業の推進	8
研究レポート2023 「心のエンジンが駆動するとき」サマリー	12
Chapter 2 > 助成先活動報告	
助成先対談 > 01 先生たちの「心のエンジン」を駆動させるには 広島県立呉三津田高等学校×和歌山県立箕島高等学校	14
助成先対談 > 02 校内に外の風を入れて、生徒・教員・組織を変えていく 富山県立高岡南高等学校×鹿児島県立福山高等学校	17
カテゴリー2 株式会社ミエタ	20
カテゴリー3 国立大学法人 東北大学	21
カテゴリー4 公立大学法人 新潟県立大学	22
カテゴリー5 一般社団法人 ティーチャーズ・イニシアティブ	23
Chapter 3 > 2023年度助成先一覧	24
Chapter 4 > 会計報告／財団概要	36

理事長メッセージ

Chairmans Message

三菱みらい育成財団は、三菱グループ創業150周年に当たり、次世代人材の育成を目的に、2019年10月に設立されました。地球温暖化、南北問題、デジタル社会への急速な転換など、予測しがたい「VUCA」(Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性)の時代を生き抜き、未来を切り拓く人づくりをテーマに、次代を担う若者の育成を目指す教育活動への助成と、ネットワークづくりや情報発信を行い、その成果を社会に波及させるために活動をしています。

グループ各社が10年間で計100億円を拠出し、高校生を中心とする15～20歳の若者たちを対象とする教育プログラムにフォーカスして、2020年度から、原則として3カ年継続する助成事業を行っています。新型コロナウイルス感染症への長期にわたる対応の下ではありましたが、2023年度までの助成先は延べ301機関、参加者総数は169,000人に及んでいます。

また、高校・大学やNPO法人等の助成先同士が意見交換や情報共有をするための交流会やシンポジウムを開催するとともに、2023年3月に出版された書籍「教育が変われば、社会が変わる」に取材協力、次いで6月には、助成事業を通じた分析と提言を盛り込んだ、研究レポート2023「心のエンジンが駆動するとき」を公表しました。

設立時から上述の活動を積極的にリードされ、財団の社会的価値を高めることに尽力されました平野信行前理事長の想いを、その後任として受け継ぎ、微力ながら財団の発展に尽くしてまいります。

持続的な社会の発展には、高校、大学、教育事業者等の教育機関の皆さまはもちろんのこと、企業、社会人、保護者を含むすべての組織と人々が、各々の立場で、教育にベストを尽くすことが欠かせません。私たち財団にできることはわずかでしかありませんが、皆さまと共に粘り強く活動を続けてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般財団法人
三菱みらい育成財団 理事長

宮永 俊一



一般財団法人三菱みらい育成財団のビジョン

私たちは、想像力・創造力・構想力を磨くための優れた教育プログラムへの助成を通して、複雑化する社会の難問に対処しながら自ら未来を切りひらく若者をサポートします。

なぜ、今「教育」なのか？

150年前、1870年に三菱グループがスタートした時代、19世紀後半は、産業革命に端を発して世界覇権が大きく塗り替えられ、日本も開国～明治維新により、その真ただ中に飛び込んでいくという激変の時代でした。それから150年、世界は再び歴史的な転換点に差し掛かり、激しい変化と予測の難しい中で、複雑な問題や課題を数多く抱えています。それらを解決していくためには、未来を切りひらく力を持った多くの人材が不可欠です。そうした次世代人材を生み出すための「教育」が必要だという、私たちの想いからスタートしています。

私たちの夢とゴール

私たちは、全国でのさまざまな優れた取り組みや仕掛けを、発掘し、助成し、育て、横に展開することで、グッドプラクティスをつくり上げます。その先には、日本の教育の在り方やシステムをより良い方向に変えていく、という私たちの夢があり、ゴールがあります。

助成プログラム一覧 (詳細は4-5ページをご覧ください)

1案件につき、原則3カ年助成を行います。2023年度は、新規助成先に加えて、2020年度に採択し3年間の助成期間を終えたカテゴリ1からカテゴリ3の助成先の中から他校への横展開などに取り組む助成先をリエントリーとして採択いたしました。

	プログラム	助成対象者	プログラム参加者
カテゴリ1	高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」	高等学校等	高校生等(15~18歳)
カテゴリ2	教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」	NPO・株式会社他 教育事業者、大学等	高校生等(15~18歳)
カテゴリ3	卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」	大学、研究機関、NPO・株式会社他 教育事業者等	高校生等(15~18歳)
カテゴリ4	大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」	大学、NPO・株式会社他 教育事業者等	大学1・2年生相当 (18~20歳)
カテゴリ5	「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」	大学、研修機関、NPO・株式会社他 教育事業者等	高校教員・指導者

なぜ、「若者」がターゲットなのか？

私たちが着目したのは、10代後半の若者たちです。この年代は、人生で最も柔軟かつ多感であり、無限の可能性を秘めた未来の担い手たちであるからです。この世代の人たちに、一人ひとりの個性と自発的な想いを引き出し、何のために生きるのか、何のために学ぶのかを自ら問い、目の前に山積みになっている課題の解決に向けて、行動を起こすことを学んでほしいからです。

私たちのチャレンジ

この財団は、10年間という期限を自らに課しています。2030年に皆さんにどのような成果をお見せできるか、それは私たちに課せられた大きな責務であり、挑戦です。

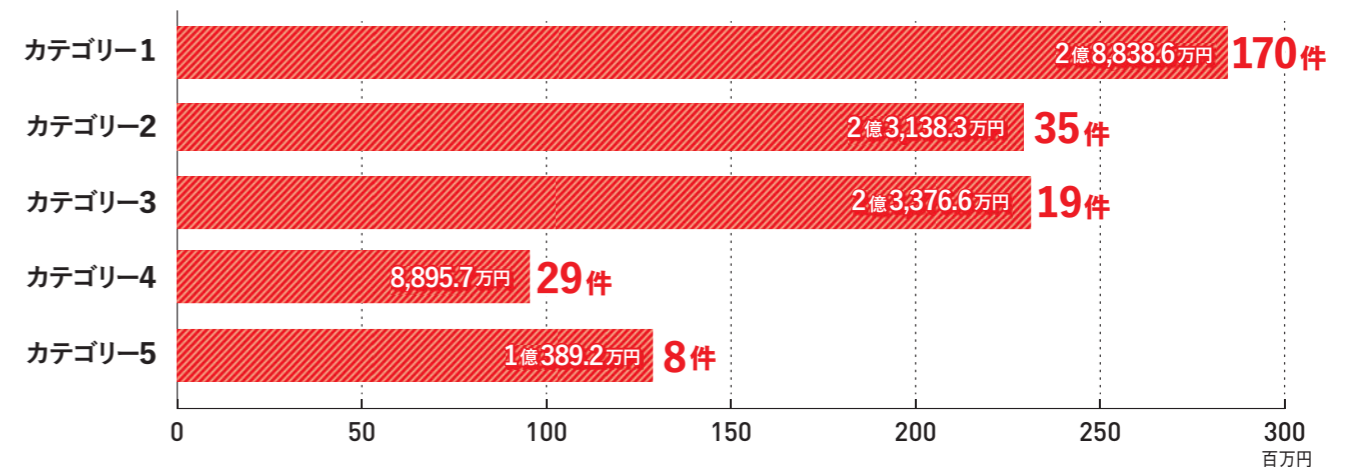
私たちのチャレンジに引き続きご期待いただき、さまざまな視点・立場から、ご意見・ご批判をお寄せください。

2023年度の応募・助成状況

2023年度の応募総数



2023年度の採択件数・助成額(継続案件を含む)



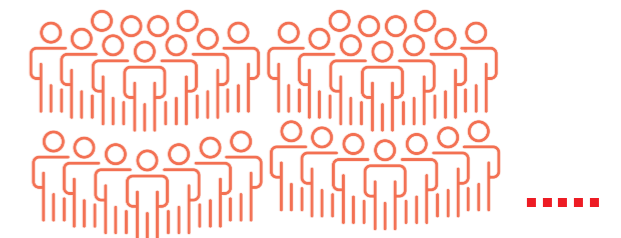
2023年度の カテゴリ1の助成先

全国 **46**
都道府県



2023年度の 全カテゴリの対象者数

約 **131,700**人



2023年度プログラム

カテゴリー1 高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

■ プログラムの形態

・総合的な探究の時間や教科等、教育課程の一環として、原則として、学年の生徒全員を対象として行うもの

・内容は生徒の実態に応じて設定し、学習領域や教育手法は自由

■ 期待する活動イメージ(全ての活動が含まれている必要はありません)

・主体的・協働的な学習(課題/研究テーマの発見から仮説設定、検証、解決・解明までの一連の流れを生徒が自主的に取り組む)プログラム

・多様な価値観に基づき思考や発想を出し合いながら創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム

・学外(企業、大学・研究機関、他校、地域等)との連携や、学校・地域に定着させるための体制や仕組みの整備も含まれると望ましい

■ 習得・向上を期待する資質・能力

思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために

必要となる資質・能力の習得・向上を期待

■ 助成対象者/プログラム参加者

高等学校等/高校生等(15~18歳)

■ 助成期間

1年間。取り組みの定着を目的に原則3か年まで継続助成(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

■ 金額

年間100~200万円程度/校
(参加者が100人以下は最大100万円)

■ 他団体からの助成有無

複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。ただし、SSH、WWL、地域との協働対象校で文科省から助成を受けているプログラムは対象外です

カテゴリー2 教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」

■ プログラムの形態

・学校外または学校内で一定期間、継続的に行われるプログラム(プログラム形式)、または、広く参加者を募り、成果を競い合うプログラム(コンテスト形式)

・学習領域や教育手法は自由(例:地域・社会課題解決学習、キャリア教育、STEAM教育、国際理解教育、食文化・農林水産、伝統文化・環境・芸術等)

■ 期待する活動イメージ(全ての活動が含まれている必要はありません)

・主体的・協働的な学習(課題の発見から仮説設定、検証、課題解決までの一連の流れを生徒が自律的に取り組む)、創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム

・学校単独では実施できない先進的または特徴的な内容(参加者間の交流や特定の属性・志向等)や手法を用いたプログラム

・助成終了後も継続実施するための体制や仕組みの整備(普及広

報、自立化方策等)が含まれると望ましい

■ 習得・向上を期待する資質・能力

思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために必要となる資質・能力の習得・向上を期待

■ 助成対象者/プログラム参加者

教育事業者・大学等/高校生等(15~18歳)

■ 金額

年間500~1,000万円程度

■ 助成期間

1年間。取り組みの定着を目的に原則3か年まで継続助成(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

カテゴリー3 卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」

■ プログラム参加者の将来イメージ

● 先端科学の研究開発

将来、分野を問わず先端的・卓越した基礎研究・応用研究を担う人材、パラダイムシフトにつながるような新技術や新領域の研究開発、イノベーションを担う人材

● グローバル・ビジネス

将来、グローバルな企業・組織において活躍する人材、国際的な視点で、高い志・創造力等を備えたビジネス・リーダー人材

●アントレプレナーシップ

将来、既存ビジネス・市場等の構造変革につながるような革新的な事業などに携わる人材

● 地球的課題、地域・社会課題解決

将来、国際的な機関・組織・NPO・企業において活躍する人材、地球的課題(SDGs等)、地域・課題解決などに携わる人材

● 芸術・クリエイティブ

将来、卓越した能力を発揮して、創造的な活動により国際的に活躍する人材

※なお、プログラム自体の卓越性に加え、飛躍的な成長が期待できる参加者の効果的な発掘方法も期待します

■ 助成対象者/プログラム参加者

大学、研究機関、教育事業者等/高校生等(15~18歳)、アントレプレナーシップのプログラムについては、高校生等に加えて「大学1・2年生相当」も対象とする

■ 金額

年間1,000~2,000万円程度

■ 助成期間

1年間。取り組みの定着を目的に原則3か年まで継続助成(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

カテゴリー4 大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」

■ 21世紀型教養教育 領域

・人文科学領域(倫理、哲学、宗教、歴史(現代史を含め)等)を中心に社会科学(法学、経済学、社会学等)、自然科学(数学、物理、生命科学等)を含め、これらの知識を融合させ「正解のない問い」について自分の頭で考えて、アウトプットするプロセスまで含むもの

・上記に加え、現代的な課題についても取り上げ、同様の手法で取り組むもの(AIと倫理、感染症対策、温暖化、エネルギー問題、ダイバーシティインクルージョン、サステナビリティ、SDGsの課題解決等)

■ プログラムの形態

大学1~2年生向けに行われる教養教育において、リベラルアーツ関連領域の知識を基に、対話的手法により自己の見識を高め「モノの見方・考え方(観)」を養うもの(Critical Thinking+Writing)

■ 期待する活動イメージ(例示)

・教養教育関連領域の講義と少人数対話型形式のディスカッションを繰り返すことでの自己啓発を組み合わせたもの(大人数での講義

と少人数対話型の混合プログラムも対象)

・大学における正式科目(講義+演習等)、複数の大学を跨ぐ活動など形式は自由(ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く。3カ月以上継続して行われるもの)。また、正式科目ではないパイロットプログラム等(大学外で実施する私塾のようなプログラム)も含む

■ 助成対象者/プログラム参加者

大学、教育事業者等/大学1・2年生相当(18~20歳)

■ 金額

年間100~800万円程度
(参加する学生数に応じて金額は変動。目安としては1万円/人)

■ 助成期間

1年間。取り組みの定着を目的に原則3か年まで継続助成(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

カテゴリー5 「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」

■ プログラムの形態

大学、株式会社、NPO等の教育事業者等が行う主体的・協働的な学習を実践する指導者育成プログラムの開発および実施。ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く

■ 期待する活動イメージ(例示)

・探究型活動に携わる高校教員・関係者を養成・育成するためのプログラムの開発

・探究型活動の教員養成プログラムの実施

■ 助成対象者/プログラム参加者

教育事業者、大学等/高校教員・指導者(参加者は、教員免許保有者に限定せず。高校教員を目指す人も含める)

■ 金額

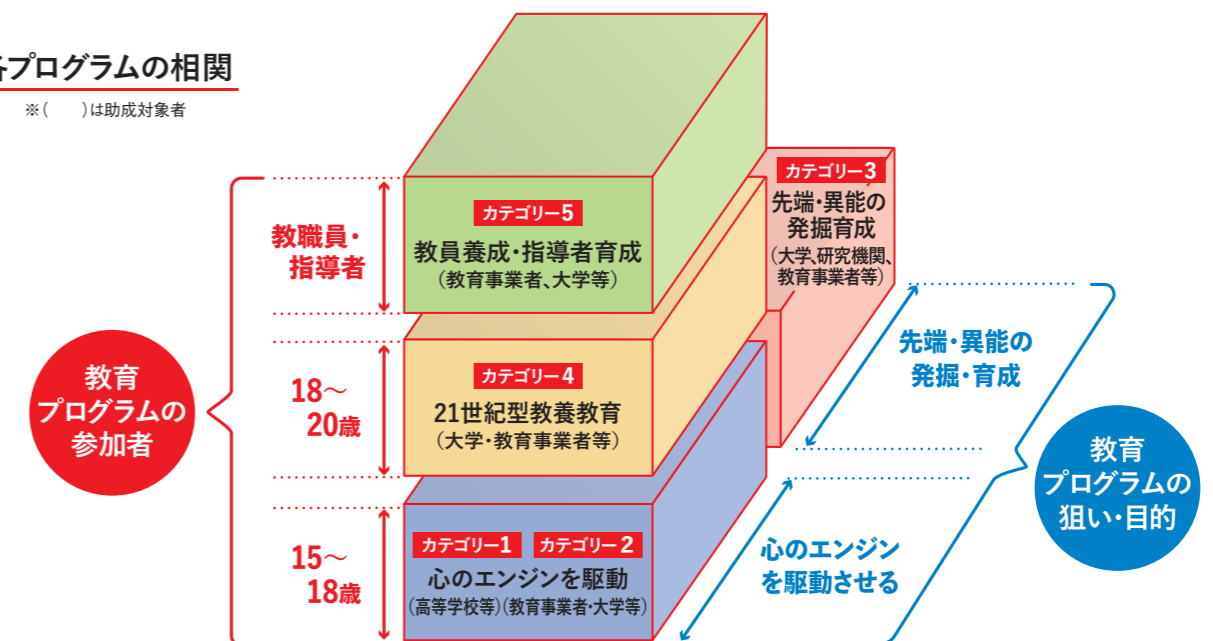
年間1,000万円程度

■ 助成期間

1年間。取り組みの定着を目的に原則3か年まで継続助成(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

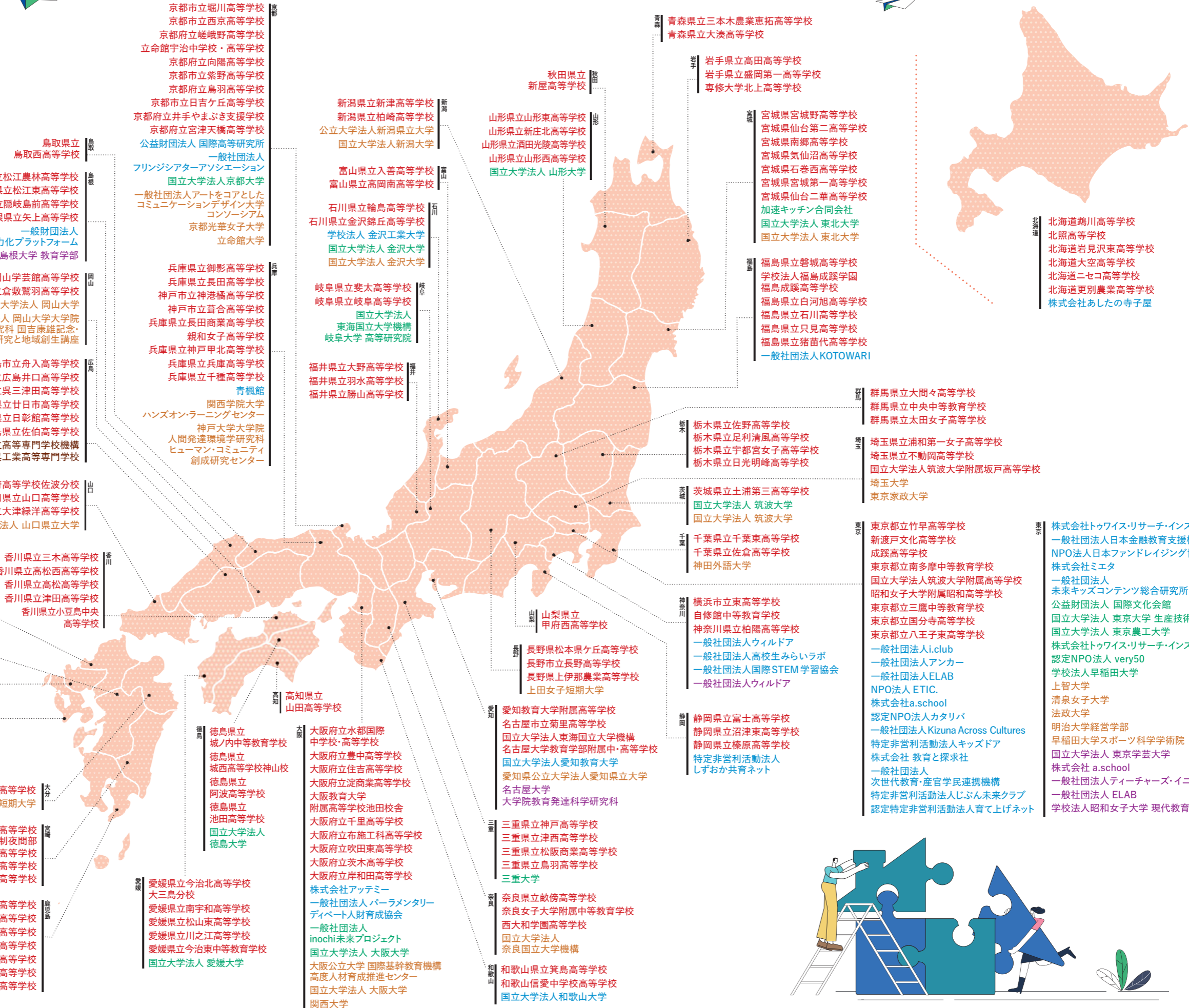
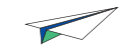
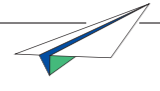
各プログラムの相関

※()は助成対象者

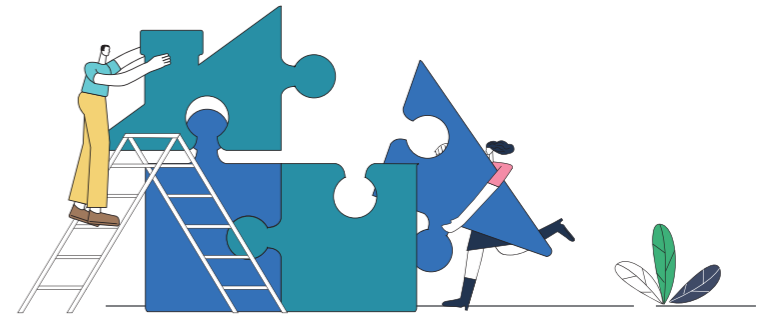


2021~23年度採択案件所在地マップ

- カテゴリー1 (高校)
- カテゴリー1 (高専)
- カテゴリー2
- カテゴリー3
- カテゴリー4
- カテゴリー5



沖縄県立与勝高等学校
株式会社 rokuyou



プラットフォーム事業の推進

助成対象の高校・大学やNPO等に対し、情報交換の場を提供しています。助成先同士が情報交換しネットワーク化されることで、お互いの悩みや課題を共有、その解決策を議論し、そこで見いだされたグッドプラクティスを横展開するとともに広く社会に発信することを目的としています。

交流会開催



オンライン交流会は、2022年11月9日に「学びづくり」をテーマに、11月11日には「組織とカルチャー」をテーマに開催。

また2023年2月25日には東京・丸の内での初対面での交流会を開催しました。応募くださった助成先は約80に上り、会場スペースの都合上、抽選とさせていただき、計36人の方々にご参加いただきました。皆さんには、日頃の“悩みの壁打ち”の場にしてもらおうとともに、ここで得たアイデアや気付きを持ち帰って実際にトライしていただくことを目的に、約4時間にわたって対話(ワークショップ)に参加いただきました。

事後のアンケートには、「大学の立場、学種の異

なる高校のさまざまなお話を聞け、大変参考になりました」「話すことで考えが整理されるとともに、新しいアイデアややってみようと思ったことが幾つも出てきました」「踏ん張って頑張っていたことが(方向性が)間違っていないという実感が出て、これからも頑張ろうと思いました」「多くの方が探究に対してアツイ思いを持っていること、『教育が変われば社会が変わる』という最後の言葉にも心が熱くなりました」などの感想を頂きました。

2023年7月22日と29日には東京と福岡でも対面の交流会を開催。計81人に参加いただき、交流を深めていただきました。



成果発表・表彰

財団では、新規助成先の一年間の活動の中から優れた取り組みを表彰するとともに、そのノウハウを共有し、他の団体の参考にしていただくための取り組みを行っています。具体的には2021年度の新規助成先に、1年間の成果を8分の動画(パワーポイントに音声吹込み)を制作いただきました。選考委員が、この成果発表動画や、2022年度に向けた継続審査を基に、グランプリ、準グランプリを選出し、三菱みらい育成財団賞も含め、2022年9月に、以下の通り表彰しました。

グランプリ	
カテゴリー1 (東日本)	長野県松本県ヶ丘高等学校
カテゴリー1 (西日本)	鹿児島県立沖永良部高等学校
カテゴリー2	株式会社rokuyou
カテゴリー4	神田外語大学

準グランプリ	
カテゴリー1 (東日本)	福井県立羽水高等学校
カテゴリー1 (西日本)	宮崎県立宮崎東高等学校 定時制夜間部
カテゴリー2	国立大学法人 和歌山大学
カテゴリー4	国立大学法人 新潟大学

三菱みらい育成財団賞	
カテゴリー3	国立大学法人 東北大学
カテゴリー5	一般社団法人 ティーチャーズ・イニシアティブ

▶2021年度助成先の成果発表動画の一覧はこちら
<https://www.mmfe.or.jp/presentation/>

▶表彰の詳細はこちら
<https://www.mmfe.or.jp/award/>

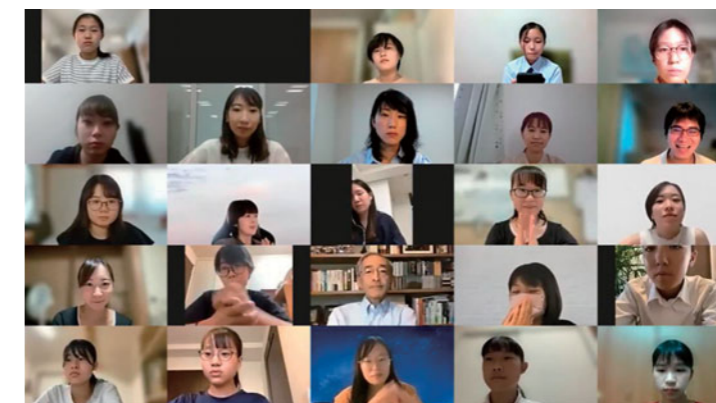
理系BLOSSOM開催

2022年8月27日には、理系への進路選択を考えている女子高校生向けにオンラインセミナー「理系BLOSSOM」を開催し、全国23都道府県79校124人の高校生の皆さんに参加していただきました。日本の理工系進学者の女性の割合は世界的に見ても低く、こうした傾向は、「女性は理系が苦手」などのアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)が根強く残っていることや将来のキャリアが見えづらくなっていることが、原因の一つとなっていると考えられます。そこで、理系出身の三菱グループ女性社員25人が、理工系学部に興味・関心を持つ女子高生の皆さんと、受験や

就職、現在の仕事についてお話しし、リアルな「ロールモデル」を感じてもらう機会としました。

当日は、理系分野で活躍するパイオニア的な存在の東京大学の大島まり教授がご自身のキャリアについてお話しされた後に、5~6人のグループに分かれ、サポート役の理系専攻の女子大学生・院生と共に約2時間半にわたってディスカッションを実施。「勇気をもたらえた」「勉強のモチベーションが上がった」等、参加者の皆さんからたくさんの感想を頂きました。

▶「理系BLOSSOM」の詳細はこちら
<https://www.mmfe.or.jp/special/00005/>



第2回 未来育成シンポジウム 「学びを変え、社会を変える教育の可能性」



2023年3月18日、東京都千代田区にて第2回未来育成シンポジウム「学びを変え、社会を変える教育の可能性」を、リアルとオンライン(Zoom・YouTube)のハイブリッドで開催しました。会場には助成先・財団関係者55人が、オンライン視聴には244人に参加いただき、オンラインのうち73人の方にZoomでディスカッションをしていただきました。

第1部では「教育の可能性を探究する」と題してパネルディスカッションを実施。モデレーターとして小林 浩氏(リクルート進学総研所長 カレッジマネジメント編集長)、パネラーとして永野 毅氏(東京海上ホールディングス 取締役会長)、田中優子氏(前法政大学総長)、吉田 文氏(早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)、鵜尾雅隆氏(日本ファンドレイジング協会 代表理事)を迎え、「今の教育をどう見ている

か」「今後どのような可能性があるのか」という二つの問いについて、おのおののご意見を伺いました。

続いて第2部のパネルディスカッション「教育の力を活かすには？」には、モデレーターとして長谷部 貴美氏(一般社団法人ELAB理事)、杉山剛士氏(武蔵高校校長)、柳 智子氏(広島市立舟入高校校長)、尾嶋好美氏(筑波大学 博士)、宮地勘司氏(教育と探求社代表取締役社長、ティーチャーズ・イニシアティブ代表理事)にパネラーとして参加いただきました。高校、大学、企業という各現場から見た「生徒の心のエンジンを駆動する瞬間をつくり出すために大切にされていること」「教育の本質とは何か」という根本的な課題に踏み込んでいただきました。

▶シンポジウムの詳細はこちら
<https://www.mmfe.or.jp/special/00006/>



研究レポート2023「心のエンジンが駆動するとき」を文部科学大臣に手交し、公表



永岡文部科学大臣(左から2番目)に研究レポートを手交する平野理事長(中央)

三菱 UFJリサーチ & コンサルティングと共に、「カテゴリー1」の成果検証、およびこれまでの活動全般からの気付き・提言を取りまとめ、2023年6月に公表しました。助成事業を通じて得た知見と、助成先高校の生徒4万8,000人へのアンケートや先生方へのヒアリングによる分析を基に、高校生の心のエンジンはどのようなときに駆動するのか、それを可能にするためには何が必要なのかについて考察しました。国や教育委員会のみならず、企業や社会人を含めた幅広いステークホルダーへの提言も行っています。

公表に先立ち、2023年6月29日、文部科学省に

て、研究レポート2023「心のエンジンが駆動するとき」を平野信行理事長から永岡桂子文部科学大臣に手交し、永岡大臣および柳 孝文部科学事務次官に、分析と提言の骨子をご説明しました。

永岡大臣からは、学校と企業の連携は重要であり、社会で必要とされる人材像について、企業側から教育現場に発信してもらえることはありがたい、とのお話があり、研究レポートは全体に示唆に富んだ内容であるとして、謝意の表明を頂きました。

▶研究レポートのサマリーは次ページ
 ▶研究レポートの詳細はこちら(本編・概要版を掲載)
<https://www.mmfe.or.jp/public/>

BOOK 書籍



書籍「教育が変われば、社会が変わる」
 三菱グループの教育財団が本気で教育に取り組んで見えてきたこと」
 がKADOKAWAから発行(2023年3月)

3年間の財団の取り組みや調査から見えてきた、日本の教育の現状と課題、そして新しい教育の在り方について紹介した書籍がKADOKAWA(著者:崎谷実穂氏)から刊行されました。財団の関係者や助成先の皆さまへのインタビュー・取り組みの取材を基に、「教育の今」と「教育のこれから」が1冊にまとめられています。

研究レポート2023「心のエンジンが駆動するとき」サマリー

他国と比較して低い高校生の自己肯定感

諸団体の調査によると、日本の高校生の自己肯定感とは諸外国に比べて著しく低く、また、自身と社会との関わりに関しても、「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」生徒の割合が、諸外国に比べて突出して低いといった傾向が見られます。

他国と比較して突出して低い日本の高校生の自己肯定感

	自分には人に誇れる個性がある	自分は他人から必要とされている	自分は責任がある社会の一員だと思う	自分の行動で、国や社会を変えられると思う
日本	47.9	52.7	48.4	26.9
アメリカ	74.0	67.7	77.1	58.5
イギリス	72.2	64.6	79.9	50.6
中国	74.2	77.3	77.1	70.9
韓国	68.9	73.7	65.7	61.5
インド	84.0	59.6	82.8	78.9

資料：日本財団「18歳意識調査「第46回国や社会に対する意識(6カ国調査)」報告書」(2022年3月)より一部抜粋し作成

「心のエンジンを駆動させるプログラム」の構造化

財団では、助成活動を通じて、教育現場に足を運び、助成プログラム実施により生徒に起きた変化や成長の事例を聞き取っていきました。「心のエンジンが駆動した」と感じる数々の事例にある共通点から、心のエンジンが駆動する姿、「普通の子の目が輝き出す」構造について仮説化を行いました。

「心のエンジン」の着火点の一つは「興味・関心」であり、もう一つは「行動・実践」です。

「興味・関心」からの着火とは、生徒の個人的な関心や得意分野等の内発的な興味・関心に関わる内容が学校での学びと接続することで、心のエンジン



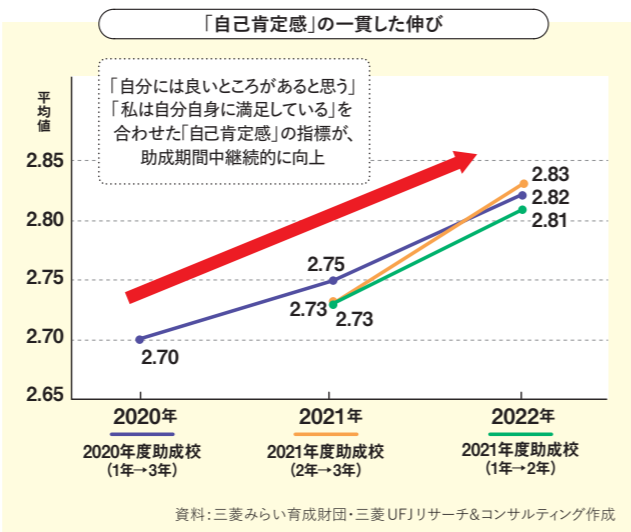
が駆動することです。一方、「行動・実践」からの着火は、自分の興味・関心の有無にかかわらず、「現場に足を運んでみる」など、人との対話を含めて、行動それ自体から得られる経験が着火点となることです。「まずはやってみる」ことから試行錯誤しつつ興味・関心を探っていくというアプローチの有効性が、多くの事例で示されています。

さらに、心のエンジンの着火を持続させるためのキーワードとして「納得・承認」があります。すなわち、さまざまな大人との出会いや対話によって、自分が「納得する」あるいは周囲から「認められる」という経験が二つの着火点をつなぎ、エンジンが駆動し続けるのではないかと仮説を立てました。

定量的にプログラムの効果を検証

財団では、カテゴリ1の助成先高校で、各校の協力を得て、「高校魅力化評価システム」(開発：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム)によるアンケート調査を継続的に実施しています。それぞれ自校のデータを教育活動の展開に活用できるよう提供するとともに、全体の傾向を分析して、探究型学習の効果についてエビデンスを得る狙いです。

2020年度助成校・2021年度助成校の生徒48,000人への2022年までのアンケート結果の分析から、生徒の自己肯定感が一貫して向上していることが分かりました。また、学校別に見ても、多くの助成先高校で数値が向上した傾向が分かっています。



資料：三菱みらい育成財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

定性的にプログラムの効果や取り組みのポイントを把握

アンケートの定量的検証で着目した指標に対して、特徴的な伸びを示した10校を対象にヒアリングを実施し、生徒の「心のエンジンの駆動」を促す学校での取り組みの工夫等について検証しました。その結果、心のエンジンを駆動させるプログラムの工夫・在り方のポイントを、次の6点に整理しました。

① 心のエンジン駆動を偶発的に刺激するさまざまなプログラム

② 「本気の大人」や社会課題の「現場」と出会う機会

③ 教科学習や進路指導も含めた全面的な探究化

④ 探究的な学びのための土壌づくり

⑤ 教員が「教える・指導する」ことを手放す

⑥ 学年を越えて学び合う仕組みづくり

15~20歳の若者の教育に係る提言

財団はこの3年間、助成事業やプラットフォーム事業を通して、さまざまな現場の声を聴いてきました。その中で課題と認識した点を整理した上で、行政や学校だけでなく、教育事業者や民間企業、保護者を含めた世論などマルチステークホルダーに対して以下の提言を行っています。

- 1> 高校世代の教育に対する資金面を含むリソース投入の充実**
国際的に見ても高校教育に対する資金提供が脆弱である日本は、今後の社会の行方を左右する人材育成に直結する「教育」への資金提供を進めていく必要がある。その際には、教育プログラムを推進するための教育活動費の拡充とともに、探究型学習推進のための原資が現場に行きわたることが重要である。
 - 2> 「心のエンジンの駆動」に関するグッドプラクティスの再現・横展開**
助成校の取り組みで確認されたグッドプラクティスは、大きく「高校等における体制づくり」「心のエンジンの駆動」に寄り添う効果的な財政支援「学校外の重層的なプログラムの充実」「セクターをまたいだ交流機会の創出」の四つであり、これらを横展開させていくとともに、高校を取り巻くさまざまな主体の支援も必要である。
 - 3> 高校での「心のエンジンの駆動」を加速するための基盤的環境の整備**
現場での創意工夫やチャレンジの促進、心のエンジンを駆動させるプログラムの充実に当たっては、前提条件として、現状の教育現場における構造的な課題を解決する基盤的環境の整備が求められる。とりわけ「教員の働き方改革の推進」や「教員の研修機会の充実」等については、早急な対策が求められる。
- 4> 主体的に考え、未来を創る人材の育成を**
本財団が三菱グループ各社により設立・運営されており、人的な担い手も主に企業人の視点にあることを踏まえ、大企業・中堅中小企業を包含する「企業」や、その経営者・従業員から成る「企業人」、個人の各種事業者を含む「社会人」等のステークホルダーと学校教育との関わりについて右記の提言をする。
 - ① **企業や社会が求める人材と、探究型学習の意義**
企業が今求めているのは、変化の波に柔軟に対応し、複雑化する課題を自分事として捉え、そのソリューションを提供することで新たな価値を生み出す人材である。しかし、この人材像は高校教育の現場で必ずしも共有されておらず、企業や企業人も求める人材像について教育現場に発信する努力が求められる。
 - ② **学校現場が地域や社会に開かれた教育を**
教員の時間捻出・教育の質の向上につなげるために、学校は校外のリソースを適切に活用することが重要。国主導のコーディネーター育成とネットワークづくりの拡大に期待する。また企業経験者の教員採用の拡大が実績に結び付いていない現状を踏まえ、社会人選考での免許取得期間猶予制度の全国拡大推進を期待する。
 - ③ **日本の教育の変革を握るステークホルダー**
地域の学校現場や教育事業者の教育活動に積極的に参加するなど、企業の規模を問わず広く企業や企業人を含む社会人が、教育や学校現場に関心を持つことが求められる。また企業人が教育現場に関わることは、自身の仕事の意義を問い直すなど、学びの機会となり、企業にも得るものが多い。こうした価値の言語化と発信が必要。

子どもたちの教育は「誰か」の課題ではなく、社会全体の課題である。
学校は地域に自らを開き、地域も学校に入っていくという両輪での好循環を目指して教員や生徒が学校外の協力者とつながるプラットフォームづくりを推進できるかが、今後の日本の教育を左右する。
鍵となるのは、企業・社会人・保護者。「教育に社会全体で取り組む」という姿勢でマルチステークホルダーが連携をしていくことが課題解決への道



先生たちの「心のエンジン」を駆動させるには

この章では、カテゴリ1~5の助成先の活動を紹介していきます。

カテゴリ1からは4校の先生にご協力いただき、妹背正雄常務理事が司会を務めて、「学校内の協働の輪を広げるには」「外部とどう連携していくのか」という二つのテーマについてそれぞれ対談いただきました。(以下、敬称略)

妹背 川本先生・山田先生のように、探究活動の取り組みを主導されている立場におられる助成先の先生から、「学校内で先生方を巻き込んでいくことに苦心している」という声をよく聞きます。この課題に対して本日は伺いたいと思うのですが、まずは探究活動を始められた経緯について教えていただけますか。

生徒の変容を見て先生方の意識も変わる

山田 私は箕島高校に赴任してきてから9年目になるのですが、3年生を担当した際に、就職や進学面接

練習であまりにも自分のことを語れない生徒の姿を目の当たりにし、「学校を変えたい」と思ったことがきっかけです。なかなかタイミングがなかったのですが、2022年度から新学習指導要領で「総合的な探究の時間」が始まることを受けて、ようやく「地球市民プロジェクト」をスタートさせることができました。

妹背 タイミングがなかったのは何か理由があるんですか。

山田 当時の教員の間では「例年通り」という、変化を嫌う価値観が根強く残っていたことが大きかったと思います。生徒が何かしたいといっても、「例年通り」と言って終わってしまう、そんな雰囲気がありました。

川本 その正反対にあるのがまさに探究活動の在り方ですよね。私は呉三津田高校に赴任して10年たつのですが、その10年以上前からGAYAの取り組みが始まっていました。ただ、私が赴任した翌年に、GAYAを始められた先生が校長先生として本校に戻ってこられたのですが、早々に「これが終わったらこれ、はい次、というように作業的・事務的になっていて、形骸化しているではないか」と指摘を受けました。その後、教員約10人によるプロジェクトチームを立ち上げ、関西学院大学の木本浩一先生にも入っていただいてもう一度見直すことになり、その中で2016年からスタートしたのが、「社会探究プロジェクト学習」通称シャカタンです。その後は、木本先生にも入っていただいて毎年見直しています。探究活動を継続しているうちに、中身が薄くなって、コンテンツの枠だけが残ってしまうということは、ありがちですよ。今年はどういう意図を持って探究活動をしていくかという意識を教員が持ち続けていくことが大事なことだと思えます。

山田 他の先生方と話していても、受け身なことが多いんですね。初めは校内での“仲間づくり”をしようと、全部の学科の授業に参加させてもらって、先生たちに感想を伝えることでコミュニケーションを図っ

ていたんです。そのうちに私が探究活動に協力してくださる外部の方を探して、交渉をする姿を見ていた先生方の中には、少しずつアイデアを出してくれたり、自分から工夫をしてくれる先生も出てきました。探究型学習を始めてしばらくたつと、職員室で、担当の教科や学年を越えて、個別の生徒の成長ぶりが話題になるようになりました。生徒が変わるのを目の当たりにすると、先生方の探究型学習への意識も少しずつ変わっていくのを感じます。また、三菱みらい育成財団に助成先として採択していただいたり、市の広報誌や地元のテレビに取り上げられたりと、外部から評価されることで、私も自信が持てるようになりましたし、先生方の関心を高める効果も高かったと思っています。

探究の時間は「教員の探究」でもある

川本 先生それぞれに“探究観”があると思うんですよ。違う視点があるということはいいいことだけれども、シャカタンとして大事にしていることをどうやって継承していくかというのは悩みどころですね。

山田 私もよく校長先生に「山田先生が異動したら探究活動はどうなるんだ」と心配されてます。

川本 担当としては、一生懸命やっている姿を見せるしかないかなと。最後まで責任を持ってやるということは自分の中で意識付けしていますね。主担当の教員がどのような顔色で取り組んでいるのか、マインドを持っているのかというのを周りに見てもらうということは大事なことだと思います。

山田 分かります！私もそうなのですが、すると「山田があそこまでやるなら手伝おうか」という人は出てくれる。ですが、あくまでも「手伝う」。揚げ句は「山田は好きでやっているしな」になってしまうんですね。

川本 私の周りも言わないだけで、そう思っている人はたくさんいると思います(笑)。

妹背 ビジネスの場でも、創業者が主導すればするほど、周りがそれに頼ってしまって、後継者や社員が育ちにくいという課題がよくありますが、少し似ているかもしれませんね。

山田 まさに！昨年からは地球市民プロジェクトに関わってくれている若い先生が1年生の分を担当してくれて、彼女なりに工夫をしてくれるんですが、自分がこれまで奮闘してきた分、若干寂しい気持ちもあるんです(笑)。でもそこで自分が変に出しゃばっていったら駄目だと思っていて。彼女がメインで担当しながら変えたいというのであれば、いいと言っています。そ



広島県立呉三津田高等学校 川本啓正先生(世界史担当)

呉三津田高校の探究活動 約20年前から総合的な学習の時間“la GAYA Scienza a Mitsuta(通称GAYA[ガイヤ])”として、ディベート大会や読書会、詩のボクシングなど教科の枠組みにとらわれない学びを実施。2016年からは2学年が通年で取り組む「社会探究プロジェクト学習(通称シャカタン)」がスタート。地元呉市をはじめ実社会をフィールドとし、社会と対話しながら自分たちで問いを設定し、その最善解を考える学びを展開している。

れでも多くの先生が“答え”を知りたいからマニュアルを欲しがらるんですね。この対談に際して私、先生方にアンケートを取ったんですよ。そしたら「答えがないから自信がない」と書いている方がいて、やりたくないじゃなくて自信がないから一歩引いている先生もいるんだと分かったんです。

川本 担当の教科だったら、大体のシナリオが見えていて、そこに戸惑いや悩みはないんだと思うのですが、探究となると分からなくなるから躊躇されるんですね。でも「探究」の主語は生徒だけではなく、教員でもあって、「教員の探究」を大事にしたいと思っています。本校も教員用のマニュアルが欲しいという声があるのですが、それは作らず、「具体的なアドバイスを極力しないでください」ということだけを伝えるにとどめています。生徒との関わり方を教員が都度考えていくというマインドが根付けば、シャカタンは継続できるんだと思っています。

先生が「負担」を感じるのはなぜか

妹背 先生の中には、探究を負担だと考えている方もいらっしゃると思いますが、一番の理由は何でしょうか。

山田 アンケート結果を見たら、先生の中には、探究



和歌山県立箕島高等学校 山田江理奈先生(英語担当)

箕島高校の探究活動 地球に生きる一人の地球市民であることを理解し、自分の行動や発言が環境や地球に生きる命全てに影響を及ぼすということを実感して、相手を気遣える愛のあふれる人間になってほしいという願いから、「地球市民プロジェクト」と名付け、2021年から実施。1年生はSDGsをテーマに環境や企業について学ぶ校外学習、2年生は沖縄修学旅行に向けて平和・愛・命・認め合いをテーマに活動、3年生は防災について学習し、防災スクールの運営を行う。

はオプションのようなものであり、やりたい人がやればいいと思っているようでした。そこでこの間の教職員会議で、2022年から学習指導要領が変わり「総合的な探究の時間」が始まったこととその趣旨について改めて説明したんです。自分の担当の教科についての通達については関心を持つのですが、それ以外は自分に関係ないと思っている。文部科学省がなぜ学習指導要領を変えたのか、今の社会に探究がなぜ必要なのか。そうした根本的なところの理解がまだ薄いのではないかと思います。

川本 探究は本来、教科の垣根を取っ払って、広く教科の学びを実社会で使えるよう柔軟な力を付けていくというのが目的で、教科の学びとは異なる。しかし、教員が教科と同じように教員と生徒を引っ張っていかなければならないという意識が強くて、それが負担になっているんじゃないかなど。何かの提案をすとか、新しいものを作るというゴールを設定してしまうと、先生にとってもプレッシャーになってしまうんじゃないでしょうか。生徒たちには、自ら問いを重ねたそのプロセスをアウトプットしてもらい、教師はそれを評価すればいいと思っています。

山田 実は、先ほどの教職員会議で思いの丈を話せてスカッとしたんです(笑)。生徒たちには自分の言葉で自分の思いを喋れと言っているのに、私は自分の思いを話せていなかったなど。先生たちの中には「探究をやりたいくない」と正直に言う先生もいます。でも生徒たちも発表なんかやらないと思うんです。それを「そうだね、やらないならやらなくていい」というのが教育なのか、それは間違った教育

じゃないですかと思うんです。私も人前で話すのは苦手ですけど、実社会に出たら、やりたくなくてもやらなければいけないことがある。そこをいかに楽しむかということ、先生たちは生徒にもっと言ってほしいですって伝えてみました。

川本 関西学院大学の木本先生には、今も探究活動の見直しにご協力いただいているのですが、今年は、教員間でシャカタンについて話す機会を、木本先生にも入っていただいてセッティングすることになったんです。どんな場になるかちょっと今からドキドキしているんです…。でも教員間で探究活動について話し合う時間はもっと必要ですね。

山田 大学の先生や外部の方に、教員向けに探究について話してもらうというのはすごくいいですね。今度、私の大学の時のゼミの先生をお呼びして講演をしますが、もっと早い段階で探究について話してもらう場を設ければよかったなと思っているところです。私が言うよりも、先生たちの納得感も高いんじゃないかと。いい気付きを頂きました。自分自身心がくじけそうになるときも多いですが、今日の対談で、「何のためにこのプロジェクトをしているのか」という原点に返ることができました。今後のヒントも頂けて、本当にお話しできてよかったです！

川本 私も、山田先生と以前お会いしたことがあったかと思えるほどに、打ち解けてお話しすることができ、学校は違えど、主体的にチャレンジする生徒を育みたい思いは一緒なのだと感じることができました。山田先生から元気とエネルギーを頂きました。ありがとうございました！！

2023年7月7日 広島県立呉三津田高校にて



校内に外の風を入れて、 生徒・教員・組織を変えていく

Special Tale
-02-
助成先
対談

探究活動を持続させていくための 取り組みとは

妹背 今回お話しいただくテーマは「外部との連携」についてですが、まずは高岡南高校の取り組みについて教えていただけますか。

笹川 2022年度でいうと、シリコンバレーの企業の方からのアントレプレナーシップ講座、地元の企業訪問、高岡市と連携した地域探究、また、富山県立大学や大学コンソーシアム石川に加え、富山大学薬学部、大阪大学外国語学部に協力いただいたの講演や実習を行っています。国際理解研修で国際ビジネスの現場を経験された方にお話をいただいたり、データサイエンス研修を実施したりもしています。これまで新たな取り組みは、石橋をたたくような慎重さで進めていたのですが、今まで連携がなかった方面でのつながりもできてきて、思い切った取り組みができる環境にもなってきました。

妹背 ありがとうございます。折田先生は、学校の活動を支援する体制として一般社団法人を立ち上げられていますね。その狙いについて教えていただけますか。

折田 2021年に一般社団法人域産官学共創機構を立ち上げ、現在、鹿児島県の企業や高校等12団体が会員になっています。立ち上げた狙いの一つは、高校の

「自前主義」からの脱却です。公立学校だと、探究活動の中心となっていた先生や理解のある校長先生が異動した後、探究活動が下火になった、という話も聞きます。地域社会と連携した探究活動の持続性を保つためには、「校内で完結させる」という考え方には限界があります。前校長が「外からの風を入れよう」と言ってくれたのは非常に心強かったですね。二つ目は、リソースの分配という面です。プロジェクトに対する適切な講師の派遣やDXの展開など、学校によって必要なニーズは異なるため、実態に沿った産官学による支援のリソースを分配できる機能が必要と考えました。例えば本校では、メンターとして慶應義塾大学の学生に毎週協力してもらっているのですが、大学へのツテがない、お互いの想いがマッチングしないという高校も多いかと思います。そうしたときに社団法人によるコーディネート機能が有効に機能します。「域産官学共創機構」という社団法人の名称は、教育に投資しないと地域や日本社会は変わらないと考える企業や行政のコミュニティー、プラットフォームが今後の日本の教育に必須だと思い、名付けました。

このような想いの下、仲間集めから活動がスタートしたのですが、幸いなことに学校の近くに、地域貢献



鹿児島県立福山高等学校 折田 真一先生(商業担当)

福山高校の探究活動 「地域社会の先導者となる人材育成」を掲げ、1・2年生を対象に学年や学科という枠を外して一緒に探究活動を進める「福山みらい創業塾」を展開。また、地域との協働活動も積極的に進め、地元企業の協力を得て、講師派遣やICTの整備を行うとともに、慶應義塾大学の大学生による継続的なメンター支援を実現。アウトプット・実践・実学等、今までの「インプット教育」以外の視点を重視した活動を行っている。

には人材育成が必要という志を持っていたトヨタ車体研究所があり、すぐに組織のマネジメントを専門的に学んだ元役員の方や従業員の方を本校に派遣してくれました。また、鹿児島のプロバイダー会社であるシナプスガルーターを貸してくれたり、スターリンクを実証実験で設置してくれたりするなどIT環境を整備してくれました。この2社からの支援が呼び水となり、トヨタカローラ鹿児島や鹿児島トヨタ自動車など、他企業も賛同してくださったことで、本校の探究活動は大きく前進しました。今も社団法人の会員になって地域の未来の人材育成に支援をしたいという企業が増え続けています。

笹川 一般社団法人をつくるという発想はなかったので驚きました。確かに探究活動をどう持続させていくかは、本校でも課題となっています。中堅の教員が育ってきているので、探究担当者一人だけではなく、中堅教員も一緒になって動くような形にしていければと考えています。

折田 中堅教員がいらっしゃるのには心強いですね。ただ全国的には、非常勤や再雇用の先生が増えて年齢の偏りが出ている学校も多いのではないのでしょうか。そこで本校では、地域や学校の先輩が後輩にプロジェクトの支援を引き継いでいくという仕組みを構築するため、1・2学年とすべての学科を同じ時間帯の授業にすることで、課題ごとのグループによる探究活動を展開しています。これは鹿児島で有名な、異年齢による教育である郷中教育^{*}をお手本にしました。

笹川 本校はいわゆる大規模校ではないものの、地元のネットワークを広く持つPTAの存在が特徴の一つかもしれません。年々入れ替わっていく約20人のPTA役員は、実に多様な人材で構成されており、外部との連携もPTAが強力にバックアップしてくれています。これまでわれわれの方が勝手に線を引いて、連携を躊躇していたところもあったのかなと最近は思っています。外とのつながりが増えていく中で、生徒たちも変わっていき、最近では生徒から先生にこういうことがしたいと提案するという声も出てきました。

折田 そうした生徒たちの動きが先生たちを巻き込んでいきますよね。

笹川 外とのつながりを求めようという教員の変化があれば、生徒たちも変わってくる。その相互作用はありますね。

時間がないのではなく、つくりたい学校での働き方を見直す

折田 組織を変えていくという面では、トヨタ車体研究所の役員OBの方に、今は一般社団法人所属の立場で来ていただいています。今年度からは生徒への支援だけでなく、教員とも「実社会で求められる探究力」について対話の機会を持ってもらうなどの支援も頂いています。企業が求めている人材について共有することで、教員にとっても教育の先にあるものは何かという意識を持てるようになりました。ただ、教員と外部の持っているリソースは違いますから、教員が専門外という意識を持ってしまい、つい外部に任せきりになってしまうということもよく起こる事です。外部と連携する上で、その点は特に気を付けなければならぬポイントだと思っています。

また、教員の業務改善のアドバイスもしてもらっています。私は起業したり民間企業で働いたりしていた経験がありましたので、本校で探究活動を始める前に先生たちに「組織がつぶれる原因はお金がない、時間がない、能力がない、という三つの言い訳をして、行動に移さないことです」と少し厳しい話をしました。そして、まずは三菱みらい育成財団をはじめ県や社団法人から活動資金を引っ張ってきた。「時間」については、業務改善に定評があるトヨタから教えてもらおうと。要は学校という組織は、「時間がない」のではなく「時間がつくりたい」状況で、企業にとっては当たり前の「アワーレート」や「業務工数」の概念がない。それをトヨタ車体研究所でマネジメントを担っていた方々から先生たちに伝えていただいています。

笹川 なるほど…。確かに学校では、経費重視で、人件費をあまり気にしないという風潮がありますよね。

妹背 ちょっと話題は変わりますが、外部コーディネーターの活用についてはいかがですか？ ニーズに合致したコーディネーターを見つけてくるのがなかなか難しいという声もよく聞きます。

折田 コーディネーターとして来校いただいている方は、トヨタ車体研究所の元役員をしていた方なので、組織のマネジメント力、事業戦略に長けていらっしゃいます。そのような高い能力やスキルを持って会社を引退した方たちが全国にたくさんいるはずですが、学校だけだと民間との接点がないので教育現場とのマッチングができてない。一方、社団法人だと人材バンク、またはマッチング機能も持たせることができます。

ただ、地域社会の未来のための人材育成に、覚悟を持って取り組んでいるという責任を、学校とコーディネーターがお互いに持つ必要があり、ボランティアでは駄目だと考えています。しかし、そうすると予算が足りないし、行政が関わるといろいろな制約がかかる場合が多い。もっと人材を流動的にしていく仕組みが必要です。

他校との連携は“経済圏”で考える

妹背 福山高校は、隣接市の曾於高校や宮崎県都城市の都城西高校と連携されていますが、なぜその2校と連携されているのですか？

折田 私は他校との連携は経済圏ですべきだと考えています。確かに両校とも本校とは異なる行政区にありますが、歴史を紐といていくと、都城市から鹿児島市へ伸びる国道は曾於市や霧島市を中継した物流街道であったり、生活基盤を支える産業はお互いに連携していたりと密接に関わっており、今でも同じ経済圏として機能しています。3校とも、地域に愛着を持ってもらい、郷土に貢献する人材を育成するという共通の目的を持っています。子どもたちが例え一時的に県外に出たとしても、戻ってきて同じ経済圏で連携できるビジネスコミュニティに発展させることが必要です。そうした将来を見越して、今から仕組みづくりをしていくことが大切だと思っています。

また、日本の地方、特に中山間地区では「地域活性化」が課題となっていますが、地域のビジネスを支える20～50代の世代は自分の子どもを魅力ある高校に入れたはずですが、つまり、魅力ある高校がなければ、生産年齢人口は集まってこない。高校の魅力化と地域活性化は常に一体と言えます。ビジネスとして地域を先導できる人材を育成する仕組みが地域と学校にあるかどうか大切です。本校の探究活動名「福山みらい創業塾」に「創業」という言葉を入れたのは、学習の



富山県立高岡南高等学校 笹川 正浩先生(物理担当)

高岡南高校の探究活動 2006年度からキャリア教育を、2016年度からは高大連携や課題研究・発表等の探究的な学習を取り入れ、2021年度にキャリア教育・探究教育を融合し、「SOUTH探究プロジェクト」をスタート。大学・地域と連携した探究活動を通して、本気で学びたいという意欲を涵養し、大学での学びにつなげている。

成果を実社会で通用する社会的インパクトのあるビジネスを展開できる人材を育てるためでもあるんです。

笹川 経済圏の中での他校とのつながり、社団法人の立ち上げなど、今までにない視点で、本校の活動への示唆も頂けました。昨年度は、新規開拓の1年で、企業・行政・大学等、さまざまな方面にお願いをし、計画していることを実現することができましたが、一方で事業を立ち上げ、実施することで目いっぱいであり、今回お話を伺って、人材や施設設備、歴史など、まだまだ地域の資産などを活用できていないことに気付きました。今年度はさらに地域の方々とのつながりを深め、商工会などと連携して事業の発展を計画していきたいと思います。

折田 私も笹川先生のお話を聞いて、学校によって置かれている環境がさまざまということを感じました。でも生徒たちが変わっていく姿を見て先生たちが変わっていくというのは、おそらくどの学校にも当てはまるのではないのでしょうか。新しいことにチャレンジしようとしたら不安も課題もある。生徒たちがそこを乗り越えた姿を見て、先生が変わって、組織が変わっていく。そんな風になっていけば、いろいろな壁を乗り越えていけるのではないかなと思えました。

笹川 私も今日富山から伺って、雄大ながら厳しい自然の中で郷中教育を通してリーダーを育ててこられた鹿児島の素晴らしさを感じることができました。ありがとうございました。

2023年7月13日 鹿児島県立福山高校にて

2022年度
カテゴリー

2

株式会社 ミエタ

学校間で切磋琢磨しながら
『社会実装』に挑戦する長期ゼミナール実社会にあるテーマを取り上げ、
社会実装を目指すプログラム

実社会の先進的な社会テーマを取り上げ、その第一線で活躍する社会人講師による指導の下、「社会実装」を重視したカリキュラムを高校などに提供している株式会社ミエタが、2022年度に新たにスタートしたプログラムは、同じテーマの講座を複数校で同時進行するというもの。22年度は、「カンボジアの保健衛生の問題解決」「持続可能な都市モデルの構想発信に挑戦」の2テーマで4校が10月から翌2月まで約5カ月間、また「楽しみながら社会課題を学べるボードゲーム制作」「社会課題を自分事化するグラフィックコンテンツ制作」の2テーマで2校が年度末の2カ月間にわたってプログラムを実施した。各校でリサーチやグループワークを進めつつ、対面の講義はオンラインでつないだり、録画を共有するといった形式で進行する。プログラム後半には、フィールドワークやユーザーヒアリングなどを行い、企画を社会実装の形に落とし込んでいく。ミエタ代表の村松 知明さんは「複数校の講義が同時進行していくことで、生徒同士が切磋琢磨する場を設けられること、また学校側の費用負担軽減につながる」といったメリットがあります」と話す。ミエタのスタッフは

ファシリテーターとして対面またはオンラインで参加。運営中の指導や伴走を講師やスタッフが担うため、先生の負担も大きく軽減されているという。授業以外の企画・準備・コミュニケーションについては、Google Classroomを使って先生方と生徒の双方に見える形で展開していくケースもある。

『社会実装』が生徒の
リミッターを外す

ミエタが現在擁する講師陣は約50人。「もともと講師の皆さんは強い信念を持って社会課題の解決のために日々“探究”しているので、自分が“成功者”だとか、自分のやり方が絶対に正しいとは思っていません。生徒たちに対して対等に向き合い、一緒に考えてくれることができる方々をアサインできるというのがミエタの強みでもあります」と村松さんは話す。

2022年度の生徒の評価をアンケートから見ると、「とても満足」「満足」と87%が回答しており、中長期的に取り組むことで、チームの結束力が高まったり、講師やファシリテーター、実社会の方々との関係性を構築できる点が、高評価につながっていると考えられるという。

もう一つ、高い満足度につながるポイントは「社会実装を目指す」ことにあり、プログラムの設計・企画を担

当し、ファシリテーターも務めている段原 亮治さんは話す。「生徒の皆さんには、学んで終わりではない、社会に対して働き掛けをしていくことがゴールで、『中高生にできる範囲で』と自ら限定する必要はないと伝え続けてきました。自分たちが行動していることになった途端に、生徒の学び方や姿勢も変わってきます」。また、その領域の先駆者である第三者が入ることが社会実装を具体化する上では重要だと、村松さんは話す。「講師を務める方々は、社会課題の解決に人生を懸け、実社会で悪戦苦闘しながら企画し、具現化し、行動に移している。そういった講師と共に、生徒自身が実社会で行動を起こすことで、“社会の一員として自分が社会を創っているんだという手応え”＝“社会の光”に生徒たちが実際触れることが重要だと考えています」。

子どもたちが実社会で自分にもできることがあると気づき、自信を持つことでキャリア形成につなげていく。こうした教育の必要性を村松さんが感じたのは、三菱商事で海外事業を担当していた時だったという。海外から日本を見てみるとそのプレゼンスが下がっていることを実感するとともに、学生時代からの友人や後輩が社会人になって「自分自身が社会で何をしたいか」というビジョンを描けていない人が多いことに疑問を感じたと振り返る。「偏差主義や詰め込み教育など、自分が受けてきた教育の中に、大きな社会課題があるのではないかと気づきました。人生を懸けて教育を根源から大きく変えたいと思い、会社を辞めてミエタを立ち上げました」。

ビジネスの現場にいたからこそ見えてきた今の教育に対する課題、それを変えていきたいという思いを持った人材がミエタに集まり、「社会に実在する教材(＝実社会のテーマや課題)を使い、各領域の先駆者と教員が一体となって生徒を育てる」という教育モデルの構築に取り組んでいる。

2021年度
カテゴリー

3

国立大学法人
東北大学東北から世界へ 未来型「科学者の卵養成講座」
～集え、異質な高校生よ。創れ、未来の理想社会を～高校生一人ひとりと向き合い、
その熱意に応える

2009年から実施している「科学者の卵養成講座」では、第1次選抜で応募動機や科学分野で興味があることを書いてもらい、300～400人の応募者の中から約100人を選び、「研究基礎コース」として月1回の講座を受講してもらう。その中からさらに研究意欲の高い生徒を選抜して「研究発展コース」として、研究室に入って研究を行う。2年目にはさらに選抜された生徒たちが「研究重点コース」として研究を継続していく。この13年間で約1,400人の高校生が参加してきた。

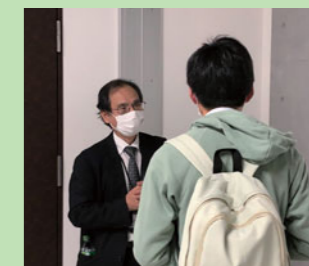
月1回の特別講義は工学から物理、生命、農学、医学、薬学、理学、情報科学等、理系全学部の教授が、「大学生・大学院生」を対象にしたレベルで各専門分野の講義を行う。講義後はレポートを提出(オンラインでは24時間後)するため、高校生たちもそれだけ熱心に聞く。講師の一人である渡辺正夫先生は、「レポート100人分を見るんですからそれなりに負担は大きいですが、今も大学の教授にとって研究が最も重要で、教育は二の次という考えがあると思います。でも先生一人ではやれることに限界がある。自分と同じレベル、または超える人物を育てていけば、結果的にその研究は加速的に進化する。私はその教育的価値を感じて、10年近く講座に関わっています」と話す。

2019年からは参加者のマイページが設計されたシステムを導入、レポートの提出や質問、相談などができるようになり、いつでも教授や講座の卒業生たちである「ひよこたち」の大学生・大学院生とコンタクトが取れるようになった。生徒の熱意に時間と手間をかけてしっかりと向き合い、その思いに応える。その繰り返しによって深まる大学と高校生との絆の深さは、「ひよこ」の活躍に見て取れる。



新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、オンラインとリアルハイブリッドでも開催。東北だけでなく、新幹線で遠方から来る高校生も多い。講義だけでなく、ここで同じ熱意・関心を持った友人をつくることを楽しんでいる高校生たちも

帰りを見送る安藤先生に質問をする高校生たち。質問待ちで4～5人の列ができることも。教員と高校生の距離が近いのもこの講座の大きな特徴の一つだ

“卵”から“ひよこ”へ
受け継がれる思いと人脈

現在、この講座の運営は「ひよこたち」が担っており、OBOG会では高校生たちの質問や相談に親身になって対応している。所属は主に東北大学の学生だが、オンラインでのOBOG会では、全国各地または海外からも参加しているという。大学生になっても引き続き「科学者の卵養成講座」に関わる理由の一つとして、OBOGは「先輩たちのおかげでやってこれたと思う。今度はその先輩方と同じ立ち位置で活動ができ、輪を広げることができる」「重点コースの研究室とは違う研究室にも、その先生の好意で行かせてもらってました。いろいろな経験を積ませてもらったことはありがたかった」と、「大学と先輩たちへの恩返し」を挙げる。また「卵」を卒業後、大学や学部、学年が異なっても、科学に興味を持った仲間としてつながることができるという点も大きな魅力となっている。渡辺先生は、「東北大学は基礎から発展コースに選抜した後も、1年を通じて講義を行います。選抜はするけれども全員に等しく講座は行う。1年かけて絆も深くなり、育ててもらったという思いが生まれてくるんだと思います」と話す。

進路の選択肢を広げるきっかけに

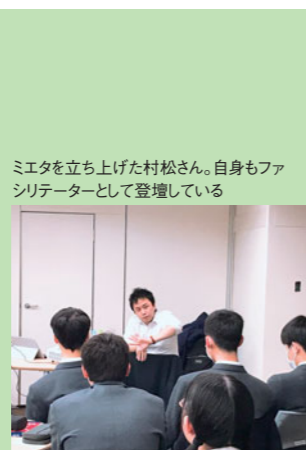
「科学者の卵養成講座」の卒業生の

進路を見ると、受講生の7割強が東京大学・京都大学を含めた国公立大学へ進学し、東北大学へも約2割強が入学している。同講座の運営委員会の担当者である大学院工学研究科の安藤 晃先生は「高校で勉強することが大学やその先の社会でどのように役立ち、つながっているのか。そのつながりや、学んだ内容の次が見えてこない勉強へのモチベーションが生まれないんです。この講座を機に学力が伸びたという高校生が多いのは、そのモチベーションをここでできている証拠だと思います」と話す。講座ではルーブリックを用意しており、高校生が自分の能力が講座の前後でどのくらい伸びたのか、自身で評価し、見える化していることも大きいだろう。また講座に対するアンケートも取り、内容もブラッシュアップさせている。

2022年度からは、岩手・弘前・秋田・山形・福島大学といった東北圏の大学とも連携し、教授がお互いの講座で講演し合ったり、東北大学の講座に参加している他県の高校生の指導を地元大学がフォローすることも進めている。東北大学内でも、アントレプレナーシップ教育、女性の活躍支援など複数のプロジェクトが走っており、それらとの連携も検討するなど、長年実績を出している同講座のリソースをベースに、新しい要素を加え、さらに進化を遂げようとしている。



複数校合同ゼミの様子。2022年度のプログラムは、全国約40の中学・高校、延べ約1万5,000人の生徒に対する7年間の実績を基にスタートした



ミエタを立ち上げた村松さん。自身もファシリテーターとして登壇している

2022年度
カテゴリー4 公立大学法人
新潟県立大学普通の学生を良き公共の
担い手に育てるためのプログラム

新潟県立大学で2020年度からスタートした授業「新潟県の地方自治」は、新潟の歴史・地誌・政策という三つのアプローチから近現代の新潟を探っていくというもの。最初の年はオンラインのみの授業となっていたが、2022年度はようやく博物館や記念館、記念碑などの現地見学を実施することができた。「各施設のガイドの説明は、小中学生もしくは観光客向けであり、大学生向けとしては内容が不足しているものもありました。ここでも大学生が地元を学ぶ機会が長年なかったことを改めて感じました」と、授業を担当する田口一博准教授は話す。授業「新潟県の地方自治」の準備に当たった際も、新潟の地方行政・歴史に関する資料は大学や地元図書館にも乏しかったため、全国の古書店などを見回って地道に資料を集めたり、キーパーソンを探し出してヒアリングを行って情報収集せざるを得なくなり、結果として実施までに約10年かかったという。

田口さんは、横須賀市の職員として職務を果たす傍ら、放送大学で政治学や法律学を学び、放送大学大学院修了後には、東京大学大学院で実務を踏まえて行政や公共政策について教えてい

た。その実績を買われ、新潟県に請われて同大学に着任したのは大学設立翌年の2010年のこと。しかし地方行政、地方公立大学の現状を知るにつれ、これまでの国家公務員を目指してきた学生との接し方、指導への考え方を大きく切り替えなければならぬと感じたという。「多くの地方公立大学が、“地元にながらも東京と同じ学問が受けられる”ことを目指してきたため、地元でありながらむしろ地元のことを知る機会が失われていました。最近は地方自治体の職員採用試験の希望者が減り、特に公務員を志望していなかった“普通”の学生が結果的に公務員になっていることが多くなっています。公共の『受け手』としての気分のまま、『担い手』になる学生に対しては、従来の公共政策教育は通用しなくなってきているのです」と田口さんは話す。

こうした現状の中で試行錯誤しつつ、ようやく3年前に「新潟県の地方自治」をスタート。安政の五カ国条約(1858年)で使い勝手の悪い新潟港をわざわざ開港させた江戸幕府の思惑、現在の新潟の基礎をつくった第2代県令・楠本正隆が地元から評価されなかった理由、明治から昭和にかけて財を成した民間人が教育のために尽力した業績など、授業の切り口はユニークで、新潟の歴史を知らない学生でも入りやすい。まずは新潟に関心を持って

調べ、学び、考え、新潟を救え！
～データに基づく公共政策と自治の実践を
オープン・コース・ウェアに～

もらうとともに、多角的な視点から今の新潟を見つめ直し、今後発展するには、またそのためにはどんな人材が必要かを探っていく内容となっている。2023年度も引き続き現地見学を実施するとともに、学生に提示している資料や授業の内容を地域関係者に提供し、地域での協力体制を構築していきたいと田口さんは話す。

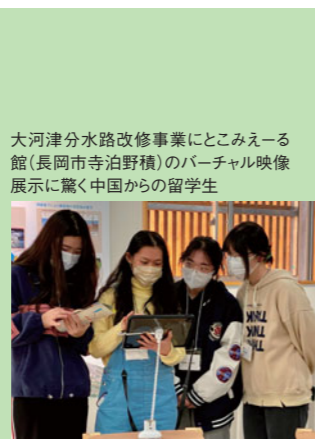
ビデオインタビューなど
授業資料を無償で公開

もう一つ、田口さんが2022年度から取り組んでいるのがビデオインタビューだ。これまでに参議院議員、県議会議員、資料館、博物館、北陸地方整備局、新潟県土木部など、さまざまな分野に携わる関係者へのインタビューを撮影してきた。「関係者の方々に実際に大学に来て講義してもらうには、時間的・地理的制約が大きく、なかなか実現が難しいため、映像教材として制作し、オープン・コース・ウェア(OCW：大学や大学院などの高等教育機関で正規に提供された教材を、インターネット上に無償で公開する活動のこと)として発信しています」と田口さん。これらの映像は、田口さんが担当する授業「行政学入門」を中心に、「新潟県の地方自治」「公共政策」でも取り入れて授業を行っている。これまで知らなかった行政という世界、ここでは自分を後回しにして人のために働く人たちがいるということ。「行政学入門」や「公共政策」で知ってもらい、それを過去にも同じようなことをしていた人たちがいたということを知ると新潟の地方自治史として実物で見せる。そのような狙いのもと、三つの授業を進めているという。

「地方自治を支える人材に対する課題は、どこの地方でも抱えているものと思われます。インタビュービデオなど授業の資料や記録をOCWにし、地方公立大学発信の地方創生のモデルケースをつくっていききたい」と田口さんは将来の展望を話す。



2022年度の「新潟県の地方自治」の授業でのフィールドワークの様子。北方文化博物館(新潟市江南区沢海)で学芸員に見所の解説をいただいた



大河津分水路改修事業にとこみえる館(長岡市寺泊野積)のバーチャル映像展示に驚く中国からの留学生

2021年度
カテゴリー一般社団法人
ティーチャーズ・
イニシアティブ「主体的・協働的な学び」を実践する
教員養成のための指導主事(教員)研修

「ラボ開発」での教員向け研修プログラム開発は、指導主事にとって「主体的・協働的な学び」の実践であると同時に、そうした学びを子どもたちに提供できる教員を育てるための研修プログラムづくりにもなる

参加者同士が主体的に対話する体験を通じて、自身の教育観や目指す方向性を言語化するとともに、互いに気付きや刺激を与え合う

「先生」ではなく、
「先生の先生」を対象に

一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ(TI)は、教育と探求社の代表取締役・宮地勤司氏をはじめとする5人の発起人により発足。その名の通り教員向けの研修プログラムを実施してきたが、2021年度から新たに指導主事向けの研修をスタートさせた。「先生の先生」をターゲットに加えた理由は、大きく二つあるという。

「第1の理由は、ソーシャル・インパクトを大きくするため」と語るのは、研修デザインを担当する福島創太さん。「教育と探求社は子どもたちに直接、探究学習を提供してきましたが、子どもたちが過ごす時間はそれ以外の時間の方が圧倒的に多い。そこで子どもたちの主体性や創造性を今以上に育ていけるようTIを立ち上げ、教員向けの新たな学びの場をつくりました。とはいえ、私たちが教員一人ひとりと出会い、学びの機会を設けていくには相応の時間を要します。そこで、『現場の教員に学びを届けること』を使命とする指導主事にアプローチすることが有効だと考えたのです」。

第2の理由は、指導主事が抱える課題を解決するためだという。指導主事は教員を指導するための具体的な仕組みや指針がない場合が多く、独力で構築する必要がある。一方で、指導主事自身に探究学習や「主体的・対話的で

深い学び」を受けた経験がなく、その本質を体感できていないのが現状だ。そこで、まずは指導主事に主体的・協働的な学びを経験してもらう場を提供し、そこで得た学びや、つくり上げた研修を担当地域の教員、ひいては子どもたちに波及させてもらう。そうした狙いのもと、指導主事向け研修をスタートさせた。

7パートの研修で、
「心のエンジン」を点火

指導主事研修は、大きく七つのパートから構成される。まずは、2泊3日の「①キックオフ合宿」において、参加者同士が教師を目指した原点や、培ってきた教育観、ビジョンなどについて語り合いながら、主体的・協働的な学びを体験する。続く「②ラーニング・デザイン・セッション」は、オンラインによる1日のセッションで、キックオフ研修の成果を言語化しつつ、「問いと対話で学びをつくる」を実践する場となる。その後は3カ月にわたり、教育に関わる先端知識をテーマとした「③オンラインセミナー」の受講と並行して、少人数のチームによる「④ラボ開発」で教員向け研修プログラムの開発に取り組む。各チームが開発したプログラムは「⑤ラボ発表会」で披露され、参加者同士で互いに実践・体験しながら感想をフィードバックし合って学びを深めながら、研修プログ

ラムに改善が加えられる。その成果を「⑥担当地域の教員たちに実践」してもらい、結果や反響などを参加者同士がオンラインで共有し、さらに学びを深めた上で、「⑦結果報告シンポジウム」での最終発表が締めくくりとなる。指導主事たちが自ら開発したプログラムは、それぞれの担当地域で教員たちを育成・指導するための具体的な研修として、大いに活用されるはずだ。

これに加えて、TIがより重視しているのが、指導主事自らが主体的・協働的な学びを実践することで、これまで培ってきた教育観を更新・拡張させることだという。

「参加された指導主事の多くは、正解のない問いに直面し、モヤモヤした思いを抱くと言いますが、探究学習や主体的・対話的で深い学び、あるいは子どもたちの主体性や創造性を育てるには『正解のない学び』も大切です。研修の終盤には、指導主事自身が『正解のない問い』に向き合う体験を通して、逡巡しながら気付きを得るというプロセスこそ、学びの本質であることに気付きます」と福島さんは研修の意義を語る。

教育観を更新・拡張するためのもう一つのキーワードが、「意図を手放す」だ。「私たちは研修プログラムを設計する際にさまざまな意図を込めますが、いざ実施する際に、あえてその意図を手放します。参加者がどう考え、どんな答えにたどり着くか、予想外の反応も受け入れながら見守ります。ガイドはしてもコントロールはしない。こうした研修でなければ、主体的に学ぶ姿勢は育まれないと思っているからです」と福島さんは語る。

正解を用意せずに教壇に立つこと、生徒を信頼して意図を手放すことは、教員にとって勇気があることかもしれない。しかし、教員が正解を持たず、生徒と一緒に学ぶ姿を見ることで、生徒たちは本当の学びを体感していけるはず。TIの提唱する二つのキーワードが、指導主事や教員たちの教育観を見つめ直すヒントとなるのではないだろうか。

カテゴリー1

都道府県順

2021 2022 2023

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	北海道鶴川高等学校	北海道勇払郡	むかわ学プロジェクト	134名	200万円
2022	北照高等学校	北海道小樽市	ふるさとを支える人材を小樽で育てる探究活動	205名	100万円
2022	北海道岩見沢東高等学校	北海道岩見沢市	「潜在能力(Capability)を掘り起こす」プログラム ～井の中の蛙、大海に飛び出そう!!	400名	200万円
2022	北海道大空高等学校	北海道網走郡	「3つのPをベースとしたPBL」(1年次「問題発見力」 2年次「問題解決能力」を育む2年間の教育プログラム)	69名	100万円
2023	北海道ニセコ高等学校	北海道虻田郡	「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」 ～ニセコと世界の境界線を溶かしていこう～	72名	100万円
2023	北海道更別農業高等学校	北海道河西郡	「課題解決能力の育成と地域活性化を目指す農業学習の展開!!」 ～更別村との連携を基軸としたプロジェクト学習～	90名	100万円
2023	青森県立 三本木農業恵拓高等学校	青森県十和田市	三本木農業恵拓高等学校普通科 「さんのう探究-地域共創プログラム開発」(総合的な探究の時間)	200名	200万円
2023	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市	グローバル社会における「防災教育」～防災を日本の文化に～	1,300名	200万円
2021	岩手県立高田高等学校	岩手県 陸前高田市	T×ACTION	234名	200万円
2021	岩手県立盛岡第一高等学校	岩手県盛岡市	「M探」Plus Science and English	840名	150万円
2022	専修大学北上高等学校	岩手県北上市	「SENTAN-専探-」カリキュラム内の探究的な学びと 課外での自己深化型学習をつなげるプログラム	515名	200万円
2021	宮城県宮城野高等学校	宮城県仙台市	自他の「しあわせ」のための「未来デザイン力」育成プログラム	560名	200万円
2021	宮城県仙台第二高等学校	宮城県仙台市	北陵グローバルゼミ	320名	100万円
2021	宮城県南郷高等学校	宮城県遠田郡	地域支援活動『とどけよう 花と笑顔と 南郷魂』 ボランティア活動を通じて地域に貢献し、 学び楽しみ続ける生徒を育成するプログラム	75名	100万円
2021	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼市	海を素材とするグローバルリテラシー育成 ～世界を舞台に活躍するスケールの大きな人材を目指して～	700名	197.7万円
2022	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市	震災を乗り越え持続可能な未来社会を創造する 市民の育成プログラム	477名	190万円
2023	宮城県宮城第一高等学校 [※]	宮城県仙台市	オール宮城で育てる「ワクワクする」未来を拓くグローバル人材の育成	560名	200万円
2023	宮城県仙台二華高等学校 [※]	宮城県仙台市	北上川／東北地方、メコン川／東南アジアをフィールドとした 世界の水問題解決のための取り組み	480名	200万円
2023	秋田県立新屋高等学校	秋田県秋田市	新屋高校SSC(SDGs×STEAM×Career)プロジェクト	160名	100万円
2022	山形県立山形東高等学校	山形県山形市	「山東探究塾」～地域・日本・世界で活躍するグローバルリーダー／ 困難な課題に立ち向かうインベーターの育成をめざして～	720名	200万円
2022	山形県立新庄北高等学校	山形県新庄市	LINKネクスト～最上の地で最上の知恵～	300名	153万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	山形県立酒田光陵高等学校	山形県酒田市	特色ある専門学科の実践及び学科を超えた協働による総合力と 世代間交流により限界集落離島飛鳥の課題解決を目指すプログラム	311名	200万円
2023	山形県立山形西高等学校	山形県山形市	嚶鳴クリエイティブ・ラボ ～グローバル人材の育成:友と学び 共に未来を創る～	398名	200万円
2021	福島県立磐城高等学校	福島県いわき市	地域トップリーダー育成のための探究プログラム	560名	200万円
2022	学校法人福島成蹊学園 福島成蹊高等学校	福島県福島市	地域に根差した問題を生徒の目線で考える探究活動 ～自分たちの手で採集した微小生物の有効利用を目指して～	50名	100万円
2023	福島県立白河旭高等学校	福島県白河市	白河旭校生が年間500の地域貢献を生み出すプログラム ～生徒が地域貢献を通して学びを深め、 社会人として将来どうありたいのかを考える～	320名	197万円
2023	福島県立石川高等学校	福島県石川郡	いしかわWORK & LIFE 探究プログラム	105名	200万円
2023	福島県立只見高等学校	福島県南会津郡	未来に繋げる「地域振興」プロジェクト	60名	83.6万円
2023	福島県立猪苗代高等学校	福島県耶麻郡	フィールドは猪苗代町! 実践から始まる 「やってみよう!おもしろそう!」をカタチにする探究プログラム	57名	100万円
2023	茨城県立土浦第三高等学校	茨城県土浦市	土浦市から宇宙まで探究のフィールドは無敵だ!	475名	100万円
2021	栃木県立佐野高等学校	栃木県佐野市	Sanoグローバル構想 田中正造型グローバルリーダーの育成	480名	198.5万円
2021	栃木県立足利清風高等学校	栃木県足利市	『学び楽しむ』～内から外へ 自ら超える“挑戦と自律”～	80名	100万円
2021	栃木県立宇都宮女子高等学校	栃木県宇都宮市	キャリア形成に資する探究活動	560名	200万円
2022	栃木県立日光明峰高等学校	栃木県日光市	「日光学NEXT」～世界遺産と国立公園が私たちの学び場です～	53名	100万円
2022	群馬県立大間々高等学校	群馬県みどり市	SDGsみらい探究 ～地域、社会の課題解決に向けて主体的に取り組み、 貢献できる生徒の育成～	351名	156.1万円
2023	群馬県立中央中等教育学校	群馬県高崎市	FEWC(Frontier Education for World Citizenship)プログラム	253名	200万円
2023	群馬県立太田女子高等学校	群馬県太田市	総合的な探究の時間「切り拓く未来」 ～自らの力で未来を切り拓き社会を牽引するリーダーの育成～	720名	200万円
2021	埼玉県立 浦和第一女子高等学校	埼玉県 さいたま市	未来のための「女性学」探究プロジェクト ～To the next stage of our project based learning～	1,078名	200万円
2023	埼玉県立不動岡高等学校	埼玉県加須市	学際的な「科学的素養」を持った「明日の世界を創造する品格ある リーダー」を育成する未来探究プログラム ～生徒自らが主役となり実践する課題研究～	1,080名	200万円
2023	国立大学法人筑波大学附属 坂戸高等学校 [※]	埼玉県坂戸市	高校生Social Change Student養成プログラム ～自分の学びをデザインしつづける力の育成を目指して～	160名	136.7万円
2021	千葉県立千葉東高等学校	千葉県千葉市	「東雲(しのめ)探Qプラン」による、 幅広い視野をもつ自立的探究者の育成	320名	130万円
2021	千葉県立佐倉高等学校	千葉県佐倉市	未来の種を蒔く SAKURA PROJECT	840名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	東京都立竹早高等学校	東京都文京区	竹早の探究 ~ All Different, All Wonderful	520名	200万円
2022	新渡戸文化高等学校	東京都中野区	心が震えた想いをプロジェクトにするために ~クロスカリキュラムで生徒の心に火をともし 「SDGs de 未来構想」の教材開発~	99名	100万円
2022	成蹊高等学校	東京都武蔵野市	新たな価値を創造する先駆的挑戦 ~成蹊スタートアッププロジェクト SEIKEI STARTUP Project~	660名	200万円
2022	東京都立南多摩中等教育学校	東京都八王子市	合言葉はCross the border、自分の枠を超える探究学習 ~多様な学びによる質の高い探究学習を通じて、 生徒のキャリア形成を図る~	960名	197.9万円
2023	国立大学法人 筑波大学附属高等学校*	東京都文京区	筑波スタディ ~「伝統」と「連携」がひらく、社会へむかう探究の扉~	480名	200万円
2023	昭和女子大学附属 昭和高等学校	東京都世田谷区	文系・理系を問わない女子高校生のDS・ プログラミングチャレンジと理工系キャリア支援 ~データサイエンスを中心に据えた探究活動プログラムの開発	200名	200万円
2023	東京都立三鷹中等教育学校	東京都三鷹市	三鷹中等教育学校の「探究(人生設計学)」	320名	200万円
2023	東京都立国分寺高等学校	東京都国分寺市	ぶんじの探究活動	640名	200万円
2023	東京都立八王子東高等学校*	東京都八王子市	『八王子東グローバル探究プロジェクト ~世界と地域で協働する力の育成~』	640名	200万円
2021	横浜市立東高等学校	神奈川県横浜市	SDGs未来都市横浜発 グローカルリーダーの育成 ~課題発見力・課題解決力を身につけて未来を切り拓く~	840名	200万円
2022	自修館中等教育学校	神奈川県 伊勢原市	C-AIR(シー・エア)プログラム	192名	200万円
2023	神奈川県立柏陽高等学校	神奈川県横浜市	探究を深化させる2年間一貫した体系的な探究プログラム	636名	100万円
2022	新潟県立新潟高等学校	新潟県新潟市	ClimbUpプラン「繋ぐ・拓く・創る」人になるためにー	480名	200万円
2023	新潟県立柏崎高等学校	新潟県柏崎市	「エネルギー、環境、海」をテーマとした 海外高校との国際共同課題研究	400名	200万円
2021	富山県立入善高等学校	富山県下新川郡	NTS(入善ツーリズムスタディ) ー参与観察的フィールドワークによる 地域とともに考えるコミュニティ創造者の育成	36名	100万円
2022	富山県立高岡南高等学校	富山県高岡市	「SOUTH探究プロジェクト~Beyond Yourself」 …大学・地域と連携し、探究力の育成を通して、生徒が本気で 学びたいという意欲を涵養し、大学での学びにつなげる	315名	200万円
2021	石川県立輪島高等学校	石川県輪島市	「WAI活」半島の最先端から世界の最先端へ ①自律的・主体的に問題解決できる力 ②創造に対し挑戦し、未来を切り拓く力を身に付けるプログラム	221名	100万円
2022	石川県立金沢錦丘高等学校	石川県金沢市	「なりたい自分」への挑戦 ~探究で育む自己肯定感とキャリアデザイン力	640名	200万円
2021	福井県立大野高等学校	福井県大野市	持続可能なコミュニティ「D-Kompas」の構築 ~オール大野による学校サポート体制を確立し、 生徒の主体的学びを支援~	390名	200万円
2021	福井県立羽水高等学校	福井県福井市	地域に提案!	884名	200万円
2023	福井県立勝山高等学校	福井県勝山市	中高接続による地域に根ざした持続可能な 「勝山型新教育プログラム K-program」の構築 ~社会に出て輝き続ける人材の育成~	327名	200万円
2021	山梨県立甲府西高等学校	山梨県甲府市	IBの手法を基礎とした、 「総合的な探究の時間」における課題研究論文の作成	640名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	長野県松本県ヶ丘高等学校	長野県松本市	信州学からグローバル課題へ・探究を实践し続ける縣陵人を育てる Kenryo Researchers Program	967名	199.4万円
2023	長野市立長野高等学校*	長野県長野市	Willから始まる探究の土壌づくり ~「翼プロジェクト」から広がる探究文化の醸成~	480名	200万円
2023	長野県上伊那農業高等学校*	長野県上伊那郡	チャレンジ『Inavation ~伊那谷で豊かなココロとカラダをイノベーション~』プロジェクト	39名	77万円
2021	岐阜県立斐太高等学校	岐阜県高山市	斐高生が結ぶ地域と世界! ~地域で考え世界とつながる、地域振興プロジェクト!~	480名	100万円
2021	岐阜県立岐阜高等学校	岐阜県岐阜市	百折不撓・自強不息の精神で目指せ! グローバルリーダー ~岐阜型探究活動プログラムにより“清流の国ぎふ”から 世界へ飛翔する若者の育成~	720名	200万円
2022	静岡県立富士高等学校	静岡県富士市	富士大型探究プログラム 「心見考」(心でものごとを考え見極める)の更なる深化を目指して ~県境をこえた教育連携の可能性~	853名	200万円
2023	静岡県立沼津東高等学校	静岡県沼津市	「揺籃」(ようらん)	292名	200万円
2023	静岡県立榛原高等学校	静岡県牧之原市	HAFプロジェクト(HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT) ~地域と世界を結ぶ有為な人材育成~	553名	200万円
2022	愛知教育大学附属高等学校	愛知県刈谷市	愛教大SEHプロジェクト~人生を切り拓く探究力の 育成を目指した探究活動「附高ゼミ」の実施~	320名	200万円
2023	名古屋市立菊里高等学校	愛知県名古屋市	個性、自主自律を開化させるマイテーマ・マイプロジェクト追究型の探究 ~みんなのなぜが社会につながる みんなのなぜが未来につながる~	960名	124万円
2023	国立大学法人 東海国立大学機構名古屋大学 教育学部附属中・高等学校*	愛知県名古屋市	文理融合教育STEAMプログラム ~知りたい・やりたい・成し遂げたい、そしてその思いを伝えたい~	360名	200万円
2021	三重県立神戸高等学校	三重県鈴鹿市	地域の未来を考え提案する探究活動「鈴鹿学」	520名	198万円
2021	三重県立津西高等学校	三重県津市	夢を叶え、未来を紡ぐ「津西!探究Education」 ~学校全体で取り組む「探究学習」~	640名	200万円
2023	三重県立松阪商業高等学校	三重県松阪市	生徒よし○ 学校よし○ 地域・企業よし○ 「三重丸(さんじゅうまる)モデル」	440名	200万円
2023	三重県立鳥羽高等学校	三重県鳥羽市	とばっ子カンパニー ~起業体験プログラム・企業探究・地域課題解決型学習~	80名	100万円
2021	京都市立堀川高等学校	京都府京都市	「よって、」と書けばいいわけじゃない。 ~論理的言語能力と将来の学びに向かう心に火をつける~	480名	150万円
2021	京都市立西京高等学校	京都府京都市	京都発! 未来の教室がある学校をめざして ーグローバルリーダーシップの育成をめざし フィールドワークを軸とした探究プログラムの構築ー	560名	200万円
2021	京都府立嵯峨野高等学校	京都府京都市	コロナ禍でも可能な国際交流 ~国際交流を通しての探究活動の活性化~	720名	180万円
2022	立命館宇治中学校・高等学校	京都府宇治市	日本×IBが作る世界水準の探究プログラムで令和の教育を創る ~探究で学校内外をつなぎ、ネットワークの力で生徒も教員も育つ~	1,250名	200万円
2022	京都府立向日陽高等学校	京都府向日市	「Third Place, MUKO」プログラム ~竹の都・向日市を第三の場所に~	400名	100.2万円
2023	京都市立紫野高等学校	京都府京都市	グローバル・シティズンシップを起動する 総合的な探究の時間を軸としたカリキュラムの共同開発	560名	200万円
2023	京都府立鳥羽高等学校*	京都府京都市	「なぜ?」を問い、社会と関わる、 社会に飛び出すグローバル・リーダーの育成	840名	171.5万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2023	京都市立日吉ヶ丘高等学校*	京都府京都市	「世界をつなぐ越境者」育成プログラム～生徒も先生も世界に踏み出そう～	480名	200万円
2023	京都府立井手やまぶき支援学校	京都府綴喜郡	「みがく むすぶ きりひらく～小学部×中学部×高等部をつなげるむすびカリキュラム～」地域(井手町)の中で光り輝く生徒の心にエンジンをかけ、未来をきりひらくやまぶきプログラム	39名	100万円
2023	京都府立宮津天橋高等学校	京都府与謝郡	Safari: 探究の海へ漕ぎ出せ! 学舎を越えた協働的な学びへの挑戦～遠隔合同授業×ICT活用×総探学習 NEW TYPEを創り出せ!～	610名	200万円
2021	大阪府立水都国際中学校・高等学校	大阪府大阪市	世界も地域も私も変わる“Suito Action Project for SDGs”	480名	200万円
2021	大阪府立豊中高等学校	大阪府豊中市	豊高型課題研究、“響学”プログラム～「ホンモノ」にふれ、「ココロ」を響かせ、真に学ぶ～	511名	126.1万円
2021	大阪府立住吉高等学校	大阪府大阪市	「SUKI」を極めるプロジェクト SUKIPRO～あなたの「SUKI」が世界を変える	560名	200万円
2022	大阪府立淀商業高等学校	大阪府大阪市	Road to EXPO 2025 “アントレプレナーチャレンジ” 地域を守れ! 「淀翔モール」防災イベントプロジェクト	508名	200万円
2022	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府池田市	未来の科学者を育成する「IKEFU KIZUNA PROGRAM」	320名	200万円
2022	大阪府立千里高等学校	大阪府吹田市	「国際科学高校」のグローバル・シチズンシップ教育プログラム～〈ひと×探究×国際性〉ひととの出会いを通して将来ビジョンを描き、世界に貢献する意欲と力を蓄える～	440名	200万円
2022	大阪府立布施工科高等学校	大阪府東大阪市	創る技術・造る技能と共に創造力を育てる「価値創造型共育」プログラム	147名	100万円
2023	大阪府立吹田東高等学校	大阪府吹田市	吹田東高校「総合的な探究の時間」主体的に考え行動する生徒の育成 第2学年プログラム「現代社会をみつめる」	312名	61.8万円
2023	大阪府立茨木高等学校*	大阪府茨木市	IBARAMA～「自主自律の精神」に基づき、「高い志」と「枠を超える知性」を育む～	680名	200万円
2023	大阪府立岸和田高等学校*	大阪府岸和田市	知の三現改革プログラム	640名	200万円
2021	兵庫県立御影高等学校	兵庫県神戸市	伸ばせ! 「みかげ力」～外部連携を活かした生涯学び続ける生徒を育てる探究活動～	640名	200万円
2021	兵庫県立長田高等学校	兵庫県神戸市	「一芸一才」を活かして「安全な未来都市づくり」を担う「アーバンクリエイター」育成方策の開発	640名	200万円
2021	神戸市立神港橋高等学校	兵庫県神戸市	多層的探究過程と学びの土壌で実現する地域協働探究～正解(こたえ)のない課題(とい)に挑み続ける「地域の人財(ちから)」～	960名	200万円
2022	神戸市立葺合高等学校	兵庫県神戸市	Be a Glocal Citizen! 探究から実践へ～地域・世界に貢献する人材の育成を目指す～	800名	200万円
2022	兵庫県立長田商業高等学校	兵庫県神戸市	高校生が株式会社「NAGAZON」を設立し、会社経営を行う!	74名	100万円
2022	親和女子高等学校	兵庫県神戸市	未来学プロジェクト～「私のミライ」と「未来のワタシ」の交差点～	370名	200万円
2023	兵庫県立神戸甲北高等学校	兵庫県神戸市	生涯探 Cue 時代を生きる世代の社会創出力育成キャリア教育プログラム	600名	200万円
2023	兵庫県立兵庫高等学校	兵庫県神戸市	先生が変われば教育が変わる～STEAM教育(ワクワク)と真正の学び(実社会との接点)の往還～	640名	200万円
2023	兵庫県立千種高等学校	兵庫県宍粟市	思創探究プロジェクト～地域の子が地域を育てる～宍粟市を思い、宍粟市の未来を創造する人材の育成	100名	100万円
2022	奈良県立畷傍高等学校	奈良県橿原市	生徒の探究心を高めるプログラム～「本物」との出会いの創出とSTEAM教育を通して～	741名	150万円
2023	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県奈良市	異なる4者との“共創”を組織することにより、未来社会に生きる「ものづくりの心」を喚起する教育プログラムの構築とその普及	160名	99.5万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2023	西大和学園高等学校	奈良県北葛城郡	Action Innovation Program (AIP)	150名	190万円
2021	和歌山県立箕島高等学校	和歌山県有田市	地球市民プロジェクト～みらいを変えるきっかけを～	143名	100万円
2022	和歌山信愛中学校高等学校	和歌山県和歌山市	「和歌山発! 地域の未来を拓く鍵となる『Key Girl』育成プログラム」	640名	146.4万円
2021	鳥取県立鳥取西高等学校	鳥取県鳥取市	鳥取県、ラオスにおける水問題をテーマとする文理融合型探究学習	560名	200万円
2021	島根県立松江農林高等学校	島根県松江市	ご縁コンソーシアムから生まれる地域の人材育成～高校生と地域の協働による地域課題解決型学習の深化を目指して～	455名	200万円
2022	島根県立松江東高等学校	島根県松江市	地域共創人育成Project アドバンスト～子どもも育つ 大人も育つ 地域共創の拠点づくり～	364名	200万円
2023	島根県立隠岐島前高等学校	島根県隠岐郡	誰もが一歩踏み出すための踏み込み共創プログラム～「踏み込み」と「振り返り」による「愛されるグローバル人材」の育成～	105名	200万円
2023	島根県立矢上高等学校	島根県邑智郡	矢高おおなん協育プログラム～生徒が学び 地域が学び 教員が学ぶ共同体の創造～	120名	190.8万円
2021	岡山学芸館高等学校	岡山県岡山市	これからの社会を創造するグローバルリーダーシップの育成～社会課題の解決に正面から立ち向かうユース層の育成を目指して～	928名	200万円
2022	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	岡山県倉敷市	「You Make 鷺羽! プロジェクト」	436名	200万円
2021	広島市立舟入高等学校	広島県広島市	広島、日本、世界へ届け! 舟入の「問い!」～「問い」から始まり、「問い」で終わる舟入の「問い」立て探究～	320名	100万円
2022	広島県立広島井口高等学校	広島県広島市	ACT-i「デザイン思考」で世界を創造する。	600名	200万円
2022	広島県立呉三津田高等学校	広島県呉市	“探究とは何か”を問える探究者～社会に根付くラーニング・プログラムを目指して	186名	100万円
2022	広島県立廿日市高等学校	広島県廿日市市	総合的な探究の時間『桜尾ゼミ』から『SACURA』へ～「楽しい」を求めて、進化・深化するカリキュラム～	280名	100万円
2023	広島県立日影館高等学校	広島県三次市	「田舎主義」～生徒の資質・能力を育成するための地域と協働した教育カリキュラムの実践～	207名	200万円
2023	広島県立佐伯高等学校	広島県廿日市市	『オール佐伯』で学校・地域の危機を乗り越える～総合的な探究の時間(SAEKI QUEST)を軸にした「つながり」の創出～	85名	100万円
2023	独立行政法人 国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校*	広島県呉市	「0→0.1」にする主体性教育の学内外への展開	516名	200万円
2021	山口県立防府高等学校佐波分校	山口県山口市	徳地コンソーシアム	48名	100万円
2023	山口県立山口高等学校	山口県山口市	多角的・物語的思考を育む「チーム探究」の開発	260名	100万円
2023	山口県立大津緑洋高等学校	山口県長門市	じぶんたちの力でまちの経済を循環させる～起業家精神を身につけるプロジェクト型学習～	30名	100万円
2021	徳島県立城ノ内中等教育学校	徳島県徳島市	エシカルの窓から世界へ～新しい価値を創造する～	664名	200万円
2022	徳島県立城西高等学校神山校	徳島県名西郡	循環型農業の実践を通じた探究型学習プログラム	90名	100万円
2023	徳島県立阿波高等学校	徳島県阿波市	A-waveがつなぐ地域と未来	465名	100万円
2023	徳島県立池田高等学校*	徳島県三好市	対話による阿波池田シビックプライド探究プロジェクト	460名	200万円
2021	香川県立三木高等学校	香川県木田郡	SDGsを軸に、授業に地域と連携した体験活動を取り入れ、3年間での生徒育成を考えた学校改革プロジェクト	450名	200万円
2021	香川県立高松西高等学校	香川県高松市	西高発 COOL JAPAN!	559名	200万円
2022	香川県立高松高等学校	香川県高松市	杉原千畝・幸子氏から広がる人道の輪～高校生同士の交流が世界へと繋がる～	700名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	香川県立津田高等学校	香川県さぬき市	私たちの町は私たちが創る～産官学連携 住む町創造プロジェクト～	182名	200万円
2023	香川県立小豆島中央高等学校	香川県小豆郡	総合的な探究の時間「権風」	420名	200万円
2021	愛媛県立今治北高等学校大三島分校	愛媛県今治市	大三島の地域文化遺産「大見神楽」の復活・伝承プロジェクト	97名	100万円
2021	愛媛県立南宇和高等学校	愛媛県南宇和郡	愛南未来づくりプロジェクト ～地域による、地域のための、地域の学校を目指して～	319名	180.8万円
2022	愛媛県立松山東高等学校	愛媛県松山市	東高 がんばっていきましょいーグローバルな学びの継承ー	720名	200万円
2022	愛媛県立川之江高等学校	愛媛県四国中央市	“Catch The Dream”～夢へとつながる探究的な学び～	353名	200万円
2023	愛媛県立今治東中等教育学校	愛媛県今治市	令和の伊予商人 今東地域資源(自然・歴史・伝統文化)事業化プログラム	200名	99.8万円
2021	高知県立山田高等学校	高知県香美市	よってたかって山高「探究」プログラム	330名	200万円
2021	福岡県立春日高等学校	福岡県春日市	春日からHasshin(発信×発進)プロジェクト ～グローバル&グローバル人材の育成～	796名	200万円
2022	福岡県立ひびき高等学校	福岡県北九州市	『考エル 自分をカエル 未来をカエル』(カエルプロジェクト) ～探究的な学びを通じたグローバル人材の育成～	700名	200万円
2021	佐賀県立佐賀農業高等学校	佐賀県杵島郡	農業高校の専門性を活かしたグローバル・リーダーの育成 ～持続可能な地域農業の実現に向けて～	236名	200万円
2022	佐賀県立佐賀商業高等学校	佐賀県佐賀市	本物を知り、伝統を守り、社会に貢献する商業人を育てる ～生徒と企業、地域人材をつなぎ、学びを深める体験型プロジェクト～	480名	200万円
2021	長崎県立上五島高等学校	長崎県南松浦郡	進取(総合的な探究の時間)「若者が島の未来をつくる ～島の魅力を島外へ、島の未来を私たちで～」	180名	188万円
2023	長崎県立吉岐商業高等学校	長崎県吉崎市	未来の起業家育成プログラム	88名	100万円
2023	長崎県立島原高等学校	長崎県島原市	文理探究科「課題研究」×普通科「地域探究」による 世界と地域の未来を創造する人材育成プログラム ～『島原高校ワクワク成長サイクル』の実現を目指して～	393名	200万円
2023	長崎県立佐世保南高等学校	長崎県佐世保市	サザンタイム ～「地域から世界へ 世界から地域へ」 循環型グローバル探究プログラム～	680名	200万円
2023	長崎県立長崎東中学校・高等学校*	長崎県長崎市	「ともによき世を創る」 ～世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを～	840名	200万円
2023	長崎県立諫早高等学校*	長崎県諫早市	「自立し未来を創造する人材育成」	828名	150万円
2021	熊本県立水俣高等学校	熊本県水俣市	水俣と世界を「いのち」でつなぐ みなまたMOYAIST(モヤイスト)の養成 ～「発信」から「つなぐ」へ～	375名	200万円
2021	熊本県立熊本高等学校	熊本県熊本市	ワクワクロスリアリティフォーラム(WXRフォーラム)	1,200名	200万円
2021	大分県立大分上野丘高等学校	大分県大分市	SGS未来創生「大空プロジェクト」	640名	200万円
2021	宮崎県立宮崎東高等学校 定時制夜間部	宮崎県宮崎市	生徒が生きがいを感じるための探究活動	70名	100万円
2021	宮崎県立都城西高等学校	宮城県都城市	都城西高校を拠点とした地域総ぐるみの次世代リーダーの育成	400名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	宮崎県立宮崎南高等学校	宮崎県宮崎市	産官学連携による都市型コミュニティ・スクールを目指して ～地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成 に資する産官学連携による人の地域循環教育～	1,061名	199.8万円
2023	宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎県宮崎市	「大地に絵をかく」イノベーターを育成する教育プログラムの研究開発 ～多様な人びと協創するグローバル・イノベーター～	1,080名	200万円
2021	鹿児島県立沖永良部高等学校	鹿児島県大島郡	「沖高みらい探究プロジェクト」 ～平和で持続可能な島づくりのために～	92名	100万円
2022	鹿児島県立屋久島高等学校	鹿児島県熊毛郡	探究活動を主体とした「屋久高(YAKKO)プロジェクト」 ～地域愛を育み、自己肯定感を高める取組～	150名	168万円
2022	鹿児島県立大島高等学校	鹿児島県奄美市	奄美から日本へ、奄美から世界へ ～奄美の高校生による課題研究発表会～	400名	200万円
2022	鹿児島県立福山高等学校	鹿児島県霧島市	現代版郷中教育による未来の人材育成プロジェクト ～地域で活躍できるクリエイター・イノベーターの育成をめざして～	200名	200万円
2023	鹿児島県立德之島高等学校	鹿児島県大島郡	徳之島「共育」プロジェクト	245名	200万円
2023	鹿児島県立奄美高等学校	鹿児島県奄美市	「結」島の未来は、わたしたちがつなぐ。	378名	200万円
2023	鹿児島県立曾於高等学校	鹿児島県曾於市	中高大・広域・地域の連携による地域社会を先導する 人材育成プロジェクト「曾於みらい塾」 ～曾於地区における創造的人材の育成を目指して～	130名	200万円
2023	沖縄県立与勝高等学校	沖縄県うるま市	よりよい社会を実現しようとする態度を育成する 「よかたんプロジェクト」	142名	97万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー1助成額…計2億8,838.6万円

カテゴリ2 組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2023	一般社団法人i.club*	東京都渋谷区	innovationGOー全国各地とつながり、未来をつくる、 オンライン探究プラットフォームー	300名	850万円
2023	国立大学法人愛知教育大学	愛知県刈谷市	フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する 産・学・高校生協同プログラム	240名	277万円
2022	株式会社あしたの寺子屋	北海道札幌市	地域の新たなイベントづくりに向けた伴走型教育プログラム ～コロナに打ち勝つ「理想のイベント」をつくろう!～	100名	875万円
2023	株式会社アッテミー	大阪府大阪市	Be the change! ～10代という枠からはみ出る勇気と、自分たちが望む未来のために、 何事にも挑んでいく覚悟を企業と共創するプロジェクト～	200名	468.8万円
2022	一般社団法人アンカー	東京都中央区	大学生による中高生のためのSDGs/サステナビリティアワード (Sustainability Award for Students by Students:#SASS2022)	1,000名	729.2万円
2023	一般社団法人ELAB*	東京都港区	「未来を描くプログラム」 ー未来を創り出す力を育むアートによる学びのプログラムー	1,200名	650万円
2022	一般社団法人ウィルドア	神奈川県川崎市	課外にある学びの資源を「選択・活用する力」を育み、 実行するための“つながり”を届けるプログラム「willdoor」	1,200名	758万円
2023	NPO法人ETIC.*	東京都渋谷区	ワンダリングチャレンジ ～3人1組で挑み、競う、ゲーミフィケーション型探究学習	3,000名	550万円
2022	株式会社a.school	東京都文京区	プロや大学生、仲間と共に、好きを徹底的に探究! 『01ゼミ』	200名	770万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	認定NPO法人カタリバ	東京都杉並区	教育リソースの共有と連携を通じた個別最適化によって、小規模校の教育価値を最大化する「COLLABOハイスクール・ネットワーク構想」	250名	632.7万円
2021	学校法人金沢工業大学	石川県野々市市	学都圏「いしかわ」創成 ～ラーニングストラテジーを学ぶPBLコンペティション～	56名	638.9万円
2021	一般社団法人 Kizuna Across Cultures	東京都豊島区	オンライン国際協働学習プログラム Global Classmates Plus (グローバル・クラスメート・プラス)	300名	631万円
2023	特定非営利活動法人 キッズドア	東京都中央区	大学で学ぶIT&デザインプログラム(IFUTO)	60名	868.8万円
2021	株式会社 教育と探求社	東京都千代田区	探究活動を実践に移し、 社会実装する部活動プロジェクト MIRAIB.(ミライブ)	100名	681.8万円
2022	株式会社 教育と探求社	東京都千代田区	「問い」で授業と出会い直す Question X	1,000名	843万円
2022	一般社団法人 高校生みらいラボ	神奈川県足柄下郡	大自然溢れる空間で、人と繋がり、自らの問いにひたすら向き合い暮らす、 次世代型探究プログラム“Co-living Camp”	300名	485万円
2021	公益財団法人 国際高等研究所	京都府木津川市	IIAS塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラム	80名	628万円
2023	一般社団法人 国際STEM学習協会	神奈川県鎌倉市	FAB QUEST (ファブクエスト) 「つくる」ことを通じて私、私たち、社会とつながるプログラム	100名	837.7万円
2022	一般社団法人KOTOWARI	福島県大沼郡	KOTOWARI	200名	501.9万円
2023	株式会社しくみデザイン	福岡県福岡市	プログラミングでクリエイトする 探究機会創出+強み発見プログラム 未来をクリエイトする人材を育成するプログラム『みらくり』	240名	690.8万円
2023	特定非営利活動法人 しずおか共育ネット	静岡県静岡市	SERENDIPITY—SHIZUOKA TANKYU COLLECTION	1,000名	400万円
2023	一般社団法人次世代教育・ 産官学民連携機構	東京都中央区	公立高校の「Collaborative Impact on Education」	640名	192万円
2022	特定非営利活動法人 じぶん未来クラブ	東京都千代田区	やってみよう、が未来をつくる 自分探求「Yes, And!」プロジェクト	60名	835万円
2023	青楓館	兵庫県明石市	高校生の「社会で生きる力」を育む 自治体・企業連携型Project Based Learning	100名	818.9万円
2021	認定特定非営利活動法人 育て上げネット	東京都立川市	若者の孤立無業化予防のためのキャリア教育プログラム Life Connection ライフコネクション	2,000名	849万円
2021	一般財団法人地域・ 教育魅力化プラットフォーム	島根県松江市	未来の地域・社会の牽引するグローバルリーダー探究実践プログラム	120名	669.4万円
2023	株式会社トウワイス・ リサーチ・インスティテュート	東京都中央区	高校生が、人工知能・ロボット工学をはじめとする次世代技術による 創造的な未来を自分の言葉で語れるようになる体験型探究プログラム	1,000名	1,000万円
2023	一般社団法人 日本金融教育支援機構	東京都中央区	FESコンテストによるワークショッププログラム	150名	360万円
2023	NPO法人 日本ファンドレイジング協会*	東京都港区	寄付とウェルビーイングを体感する日本初の寄付版SDGカードゲーム 「from Me」プログラム	8,000名	500万円
2023	一般社団法人パラメンタリー ディベート人財育成協会	大阪府堺市	人工知能を用いた即興型ディベート能力開発プログラム ～他者への想いを馳せよう～	300名	510万円
2022	一般社団法人フリンジ シアターアソシエーション	京都府京都市	「演劇で学ぼう」 表現する⇔受け止める循環をつくる、アートプログラム	550名	654.4万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2022	株式会社 ミエタ	東京都千代田区	学校間で切磋琢磨しながら『社会実装』に挑戦する長期ゼミナール	240名	900万円
2021	一般社団法人未来キッズコン テンツ総合研究所	東京都港区	競技会形式で最新のAI/ICT関連技術を競う 「シンギュラリティバトルクエスト」	1,000名	800万円
2021	株式会社 rokuyou	沖縄県中頭郡	地域企業と肝心(ちむぐくる)育む 公立高校むけPBLプログラム	1,440名	527万円
2021	国立大学法人 和歌山大学	和歌山県和歌山市	宇宙甲子園	640名	755万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー2助成額…計2億3,138.3万円

カテゴリー3 組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2023	一般社団法人 inochi未来プロジェクト*	大阪府大阪市	inochi Gakusei Innovators' Program	280名	700万円
2023	国立大学法人 愛媛大学	愛媛県松山市	「学チャレ合同会社」を基盤とする 地域活用アントレプレナーシップ育成プログラム	50名	1,000万円
2023	国立大学法人 大阪大学*	大阪府吹田市	大阪大学の教育研究力を活かしたSEEDSプログラム ～未来を導く傑出した人材発掘と早期育成～	160名	1,000万円
2023	加速キッチン合同会社*	宮城県仙台市	次世代放射線探究活動 ～検出器を製作し・放射線を測定する～	200名	800万円
2022	国立大学法人 金沢大学	石川県金沢市	未来成長分野開拓型再創業(Re-Startup) アントレプレナー教育プログラム	65名	794万円
2022	国立大学法人 東海国立大学 機構 岐阜大学 高等研究院	岐阜県岐阜市	岐阜大学 アントレプレナー育成プログラ ～野心よ集え～	100名	1,600万円
2022	国立大学法人 京都大学	京都府京都市	京都大学異能プログラム	120名	1,800万円
2023	公益財団法人 国際文化会館	東京都港区	ルールを変える「若手政策起業家」育成プログラム	160名	1,000万円
2023	国立大学法人 筑波大学*	茨城県つくば市	未来を切り拓くフロントランナー育成プログラム 筑波大学GFEST (Global Front-runner in Engineering, Science & Technology)	40名	1,000万円
2022	国立大学法人 東京大学 生産技術研究所	東京都目黒区	インクルーシブな未来社会をデザインする 東京大学STEAM型創造性教育プログラム	100名	1,800万円
2023	国立大学法人 東京農工大学	東京都府中市	GXを推進するグリーン・スキルを備えたGXリーダーを養成する 「GXサイエンスキャンプ(Green Transformation Science Camp)」	144名	1,200万円
2021	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	東北から世界へ みらい型「科学者の卵養成講座」 ～集え、異質な高校生よ。創れ、未来の理想社会を～	100名	1,970万円
2022	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	～未来を大胆に切り拓く三綱領～ 未来創造・価値工房・異能発掘 アントレ人材育成プログラム	300名	2,000万円
2023	株式会社トウワイス・リサーチ・ インスティテュート	東京都中央区	国内外の教育イベントに出場して優秀な成績を修めた高校生がチーム を結成し、1年間で3分野の課題解決に取り組む高校選抜探究リーグ	50名	600万円
2023	国立大学法人 徳島大学	徳島県徳島市	徳島大学 次世代産業人材創出プログラム ～起業という世界を知り、体験し、実践する～	150名	1,260万円
2021	認定NPO法人 very50	東京都豊島区	社会起業で世界を変える実践型アントレプレナーシッププログラム 「EGG: Entrepreneurship in the Global Ground」	100名	826.5万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2023	三重大学	三重県津市	メタバース有造館～文理融合イノベーション創出プログラム～	80名	1,000万円
2021	国立大学法人 山形大学	山形県山形市	山形大学発 IT 人材育成 ～シリコンバレー版スーパーエンジニアプログラミングスクール	120名	1,226.1万円
2022	学校法人早稲田大学	東京都新宿区	W-EDGE ユース・イノベーター (WEYI) 育成プログラム	100名	1,800万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 **カテゴリー3助成額…計2億3,376.6万円**

カテゴリー4 組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	愛知県公立大学法人 愛知県立大学	愛知県長久手市	愛県大教養教育新カリキュラム:「県大世界あいち学」の始動	761名	736.1万円
2022	一般社団法人アートをコアとした コミュニケーションデザイン 大学コンソーシアム	京都府京都市	グローバル・エシカル教育のための、創作アートを応用した アクティブ・ラーニング・プログラムの開発と実践	120名	120万円
2023	上田女子短期大学	長野県上田市	「デザインの学び」の開発:今日の大学教育の中心をなす 「知る」学びと芸術やデザイン分野で培われた 「行う(表現する)」学びを組み合わせる営み	300名	280万円
2023	大分県立芸術文化短期大学	大分県大分市	デジタル教材づくり参加型教養教育プログラム ～高校生向け「情報」用アニメ教材シリーズの制作～	30名	150.5万円
2023	大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター	大阪府堺市	転換期の社会に求められる力を培うための 産学連携型教育プログラム:QBIC~Question Based Innovation and Career education program for societal transition~	80名	235万円
2021	国立大学法人 大阪大学	大阪府吹田市	「対話」で開く「学問への扉」～少人数セミナー型初年次導入科目の挑戦～	3,400名	800万円
2022	国立大学法人 岡山大学	岡山県岡山市	地域の未来デザイン ～社会共創と分野横断型学習で 現代社会課題に挑む「恩送り」の探究プログラム～	150名	136万円
2022	国立大学法人 岡山大学大学院 教育学研究科 国吉康雄記念・ 美術教育研究と地域創生講座	岡山県岡山市	テーブル・ロール・プレイング・ゲームを通して学ぶ物語の作法 アナログゲームシステムで養う 「思考する力・対話する力・他者と協働する力」	240名	199.6万円
2023	国立大学法人 金沢大学	石川県金沢市	未来デザインプラクティス ～自分と未来は変えられる!～	60名	190万円
2023	関西大学	大阪府吹田市	「ごちゃまぜ協働」によるソーシャル・アントレプレナーシップ 育成プログラム(SEJumCoプログラム)	120名	226.3万円
2021	関西学院大学 ハンズオン・ラーニングセンター	兵庫県西宮市	多拠点型の高等教育OSプログラム ～ハンズオン・ラーニング・プログラムの構築～	170名	300万円
2021	神田外語大学	千葉県千葉市	グローバル・チャレンジ・ターム	60名	200万円
2023	国立大学法人 九州工業大学	福岡県北九州市	九州工業大学アントレプレナーシップ教育プログラム ～未来思考キャンパスで、自分らしさを探求し、 社会に価値を創出するアントレプレナーを目指そう!～	60名	120万円
2022	京都光華女子大学	京都府京都市	実践知を育てる ～今とこれからの豊かに、確かに生きる人間力の形成プログラム～	497名	394.2万円
2023	神戸大学大学院人間発達 環境学研究所ヒューマン・ コミュニティ創成研究センター	兵庫県神戸市	異質な当事者性の交差を生むグローバル・ボランティアツアー・ プログラムの開発～持続可能な社会づくりに向けてのユースの エンパワメントを目指して～	70名	248万円
2023	埼玉大学	埼玉県 さいたま市	HiSEP-Mirai (ハイグレード理数教育プログラム～問題発見・解決力育成シリーズ)	180名	353.8万円
2021	上智大学	東京都千代田区	「基盤教育センター」構想 ～全学共通科目の見直しによる新しい教養教育の実践	3,000名	450万円
2021	清泉女子大学	東京都品川区	「グローバル・シティズンのための101のコンセプト」 ～VUCA時代におけるアクティブ地球市民育成プログラム～	60名	60万円

カテゴリー4助成額…計8,895.7万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	国立大学法人筑波大学	茨城県つくば市	TSUKUBA 社会国際学初年次チュートリアルプログラム TSUKUBA Tutorial Freshman Program in Social and International Studies (T-FEP)	120名	120万円
2023	東京家政大学	埼玉県狭山市	基礎教養科目から形成する人と信頼関係を築く 多角的コミュニケーション力	160名	160万円
2021	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	挑創カレッジと学問論でつむぐ 分野横断型リベラルアーツプログラム	2,450名	725.2万円
2023	国立大学法人 奈良国立大学機構	奈良県奈良市	喚起・融合・交歓により「総合知を構築する力」を育み、磨き合う 学修システム『奈良カレッジズ学問祭』を核とする3つの取組	1,460名	760万円
2022	公立大学法人新潟県立大学	新潟県新潟市	調べ、学び、考え、新潟を救え!～データに基づく公共政策と 自治の実践をオープン・コース・ウェアに～	150名	150万円
2021	国立大学法人 新潟大学	新潟県新潟市	新潟大学ダブルホーム ～地域と共に創る「新たなふるさと」～	250名	305万円
2022	法政大学	東京都千代田区	STARTプログラム (SDGs Target Active learning Revolutionary Trial Program)	200名	165万円
2023	明治大学経営学部	東京都千代田区	クロスボーダー課題解決力を発揮できる 次世代グローバルリーダーの育成 ～国際トリプルハイブリッド授業による SDGs 探究学習～	120名	280万円
2023	公立大学法人 山口県立大学	山口県山口市	全学科混成チームで地域課題解決のアイデアを創出する 「やまぐち未来デザインプロジェクト」	323名	238.2万円
2021	立命館大学	京都府京都市	学びのコミュニティ・オーガナイズングによる未来共創プログラム ～自由に生きるための知性を磨く～	500名	500万円
2022	早稲田大学 スポーツ科学学術院	東京都新宿区	専門領域と融合したアカデミックスキルズ教育 ～「共有し、考え、伝え、発信する」	800名	292.8万円

カテゴリー5

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	国立大学法人 東京学芸大学	東京都小金井市	高等学校における授業及び教師教育モデルの開発・普及プロジェクト	10,000名	4,000万円
2021	株式会社 a.school	東京都文京区	探究学習ファシリテーター講座「探究PLAYers!」	50名	850万円
2021	一般社団法人ティーチャーズ・ イニシアティブ	東京都千代田区	「主体的・協働的な学び」を実践する教員養成のための 指導主事(教員)研修	24名	973.4万円
2022	一般社団法人ELAB	東京都港区	主体的・協働的学習を推進するための 「創造的コミュニケーション力」開発講座	150名	740万円
2022	国立大学法人 島根大学 教育学部	島根県松江市	地域教育魅力化コーディネート人材育成プログラム	60名	999.3万円
2023	一般社団法人ウィルドア	神奈川県川崎市	「わたしから始まる学び」を課外の資源に繋げ、促進する 学びの「ナビゲーター」研修プログラム	35名	980万円
2023	学校法人昭和女子大学 現代教育研究所	東京都世田谷区	先生による、先生のための、先回り研修プログラム(略称:先3) ～4つのチカラでミライを自作自走する先生コミュニティの創出～	100名	929.5万円
2023	名古屋大学 大学院教育発達科学研究科	愛知県名古屋市	探究的な学びを通じて個性的で自立的な生徒を育成する 教師の洞察力と構想力の育成	200名	917万円

カテゴリー5助成額…計1億389.2万円

貸借対照表 2023年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	755,572	717,417	38,154
未収金及び前払費用	65,805	58,611	7,194
未収金	64,300	57,106	7,194
前払費用	1,505	1,505	0
流動資産合計	821,377	776,028	45,348
2. 固定資産			
その他固定資産合計	13,356	13,177	178
固定資産合計	13,356	13,177	178
資産合計	834,732	789,206	45,527
II 負債の部			
流動負債(未払金、未払費用等)	47,243	26,136	21,107
負債合計	47,243	26,136	21,107
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	787,489	763,070	24,419
正味財産合計	787,489	763,070	24,419
負債及び正味財産合計	834,732	789,206	45,527

正味財産増減計算書 2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	1,010,000	1,010,000	0
その他経常収益	139	7	132
経常収益計	1,010,139	1,010,007	132
(2) 経常費用			
事業費	960,031	623,088	336,943
支払助成金	744,403	463,816	280,587
人件費	24,536	25,489	▲954
その他事業費	215,628	159,272	56,356
管理費	25,090	24,651	439
人件費	11,481	11,642	▲161
その他管理費	13,609	13,009	600
2. 経常外増減の部			
経常外費用			
当期一般正味財産増減額	24,419	362,268	▲337,849
一般正味財産期首残高	763,070	400,802	362,268
一般正味財産期末残高	787,489	763,070	24,419
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	787,489	763,070	24,419

評議員・役員

評議員

島村 琢哉

(AGC株式会社 取締役会長)

杉山 博孝

(三菱地所株式会社 特別顧問)

清家 篤

(日本赤十字社 社長)

高岡 英則

(三菱金曜会 事務局長)

高橋 裕子

(津田塾大学 学長)

田中 愛治

(早稲田大学 総長)

永田 恭介

(筑波大学 学長)

広瀬 伸一

(東京海上日動火災保険株式会社 取締役社長)

理事長

宮永 俊一

(三菱重工業株式会社 取締役会長)

常務理事

妹背 正雄

理事

阿部 恵成

(三菱電機株式会社 常務執行役)

柏木 豊

(三菱商事株式会社 代表取締役 常務執行役員)

笹 のぶえ

(大妻女子大学 特任教授)

七條 博明

(公益財団法人 三菱財団 常務理事)

篠原 聡子

(日本女子大学 学長)

鈴木 寛

(東京大学教授、慶應義塾大学特任教授)

藤原 謙

(三菱ケミカルグループ株式会社 取締役 執行役エグゼクティブバイスプレジデント コンプライアンス推進統括執行役 セネラルカウンシル)

監事

三宅 茂久

(税理士法人 山田&パートナーズ 統括代表社員)

アドバイザー・ボード委員

大島 まり

(東京大学大学院情報学環／生産技術研究所 教授)

小林 浩

(リクルート進学総研 所長、リクルート「カレッジマネジメント」編集長)

飾森 亜樹子

(株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 経営企画部 ブランド戦略グループ部長 チーフ・コーポレートブランディング・オフィサー)

宮本 久也

(全国高等学校長協会 事務局長)

吉田 文

(早稲田大学 教授)

※2023年6月30日現在(五十音順・敬称略)

組織概要

所在地

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
丸の内仲通りビル9階

設立日

2019年10月1日

事業内容

教育プログラムや教育事業者への助成、事業活動のサポート

事業期間

2019年10月1日～2031年3月31日まで(予定)

総事業費

約100億円

お問い合わせ先

info@mmfe.or.jp

発行：2023年9月

制作協力/株式会社エム・シー・コミュニケーションズ
デザイン/株式会社弾デザイン事務所

Mitsubishi Memorial Foundation for Educational Excellence



一般財団法人

三菱みらい育成財団

www.mmfe.or.jp

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
TEL:03-6206-3435 / FAX:03-6206-3436

